

令和4年度

愛媛県ノーリフティングケア普及啓発セミナー

日時 令和5年3月20日(月)
13:30~16:10

会場 愛媛県総合社会福祉会館
4階「視聴覚室」
※オンライン同時開催

社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会

令和4年度 愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業 推進事業所募集要領

1 目的

要介護高齢者の自立度を考慮した適切な福祉用具・機器の活用と身体の機能・構造に即した介護技術を実践し、介護従事者が、腰痛など職業に起因する健康上の不安なく働くことができる職場環境作りを進めることによって、要介護者及び介護従事者双方の負担軽減とケアの質向上を図り、介護従事者の離職防止や介護人材の安定的確保に資することを目的とする。

2 実施主体

愛媛県（事務受託団体：社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会〔以下、県社協と略〕）

3 応募対象・推進事業所

愛媛県内の「介護保険法に基づく介護サービス事業所」等を対象に公募し、推進事業所を12か所程度選出する。なお、推進事業所の選考は、推進会議を開催して行う。

4 応募方法

別添【申請①】応募申請書 及び【申請②】同意書を作成のうえ、**令和4年7月20日（水）までに**県社協に提出する。

5 事業内容

(1) 推進事業所の募集

県社協は、愛媛県内の介護サービス事業所等に周知し、広く募集を行う。

事業実施を希望する事業所は、【申請①】応募申請書 及び【申請②】同意書を県社協に提出する。

(2) 推進事業所の選考

県社協は、推進会議を開催し、応募の中から推進事業所の選考を行う。

※県社協は、応募事業所に対して選考結果を速やかに文書で通知する。

====以下、指定を受けた推進事業所が、取組み・参加等を行う=====

(3) 労働安全衛生管理ワークフローに基づいた取組み（8月）

指推進事業所は、別添1「労働安全衛生管理ワークフロー」にある作業を開始する。

(4) 全体研修①（8月）

県社協は、推進事業所のリーダー等を集めて事業説明や今後の取組み等に関する研修を行う。この研修会の後、各事業所で導入前職員アンケートを実施するとともに導入計画等を作成し、それらに基づいて福祉用具・機器の導入を行う。

※福祉用具・機器の導入（購入又はレンタル）にかかる経費は、各事業所の負担となります。

※福祉用具・機器の導入にあたっては、講師が各事業所の状況に応じた助言を行います。

(5) アドバイス研修①（9月）

県社協は、協力事業所（過去にモデル事業所の指定を受けた先駆的取組み事業所）等において、推進事業所のリーダー等を集めて、各事業所が作成した書類の精査を行うとともに、導入した（予定の）福祉用具・機器の使用等に関する研修を開催する。

推進事業所は、同研修での精査結果等を踏まえ、実施計画書を作成する。

(6) 個別研修①（10～11月）

県社協は推進事業所（12か所）において、職員を対象とした「トータルセーフティケアに欠かせない姿勢の見方等に関する研修」を開催する。この研修会の後、推進事業所は、ノーリフティングケア等に関する作業標準（様式任意）の作成に取り組む。

(7) 個別研修②(12~1月)

県社協は推進事業所(12か所)において、職員を対象とした「ポジショニング(姿勢の整え方)等に関する研修」を開催する。この研修の後、各事業所は導入後職員アンケートを実施する。

(8) アドバイス研修②(2月)

県社協は協力事業所等において、推進事業所のリーダー等を集めて、各事業所でのケアの浸透状況等を確認・検証するとともに、課題を整理するための会議を開催する。

(9) 普及啓発セミナー(2月)

推進事業所のリーダー及び関係者が一堂に会し、本事業による成果や課題、今後の方策について意見交換を行う。

6 指導講師等

- (1) 愛媛県介護実技普及指導員(介護福祉士、理学療法士等)
- (2) 先駆的にノーリフティングケアに取り組んでいる事業所のリーダー等

7 推進事業所の選考にかかる評価項目

- (1) 実施計画の妥当性
 - ① ノーリフティングケアの実施体制、マネジメント方法は妥当か。
 - ② 福祉用具・機器の導入予定内容は妥当か。
 - ③ 利用者及びその家族へのアセスメントは、適切に行われる計画となっているか。
- (2) 目標達成の可能性
 - ① 現在の課題を把握できているか。
 - ② 目標設定は具体的か。
 - ③ 目標と実施計画の親和性は高いか。
- (3) 将来性・モデル適性
 - ① モデル事業終了後も事業所全体で継続して取り組む体制・意欲はあるか。
 - ② PDCAサイクルによって業務の改善・効率化が図れるか。
 - ③ 将来的に、他の事業所の模範となりうるか。

8 その他

新型コロナウイルス感染症拡大防止策を別紙のとおり行いますのでご協力願います。

9 応募先(本事業事務局)

愛媛県社会福祉協議会 福祉人材部 長寿推進課(担当/森田、下岡)

〒790-8553 松山市持田町三丁目8番15号

TEL 089-921-5140 FAX 089-921-8939 E-mail chouju@ehime-shakyo.or.jp

あなたの職場でもはじめませんか？

愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業 推進事業所募集！

愛媛県社協では、愛媛県の委託を受けて上記事業を実施しています。この事業では、参加事業所に対する講師派遣等で、ノーリフティングケアの導入にかかる実施体制の構築や研修等による人材育成を支援しています。

あなたの事業所も「推進事業所」として利用者のために、介護者のためにノーリフティングケアに取り組んでみませんか？

【利用者のために】



- ノーリフティングケアの導入で利用者の心身の負担が軽減！
- 利用者自身ができることを活用することで拘縮・褥瘡などの二次障害を予防！

介護の現場を救うノーリフティングケアの実践で利用者も介護者も、もっと笑顔に！



【介護者のために】



- ノーリフティングケアの導入で職員の腰痛などの負担を軽減！
- 介護者の負担を減らすことで、職員の人材確保・定着を促進！



【移乗シート・グローブ、ターンテーブル】

応募締切 令和4年8月22日(月) ※詳しくは、別添の募集要領等をご参照ください。

事業所のこんな不安にも対応しながら事業を進めていきます！

新型コロナウイルス感染症

- ・消毒や換気等、感染症対策に細心の注意を払いながら取り組み、感染状況や事業所の個別の事情等、適宜相談しながら、延期やオンライン開催への変更等、柔軟な対応をさせていただきます！

導入費用

- ・ノーリフティングケアに関連する福祉用具等には様々なものがあり、費用を抑えながら取り組むことも可能です！
- ・高額な福祉用具等を購入しなくても、移乗シート等安価な用具と介護技術により効果を出すことが可能です！
- ・本事業に取り組むことで、フォローアップ研修など長期間（数年）にわたって支援することも可能です！



「愛媛県介護ロボット相談窓口」開設

愛媛県社協では、厚生労働省の委託を受け、介護ロボットの導入や活用を促進するための相談窓口を開設しました。(令和4年6月1日開設)

同窓口では、介護現場からの介護ロボットの導入や活用方法等に関する相談に対して、ロボットの製品情報や導入事例、業務改善方法等の助言・紹介を行うとともに、介護ロボットの試用貸出に関して開発企業との連絡調整等を行っていますので、積極的にご活用いただきますようお願いいたします。

【相談窓口の主な業務】

- 介護ロボットに関する各種相談への対応
- 介護ロボットの試用貸出(貸出無料)
- 介護ロボット体験展示コーナーの運営 等



介護ロボットの試用貸出について

「介護ロボットの試用貸出リスト」(厚生労働省/テクノエイド協会 発行)



同リストにある介護ロボットは、愛媛県介護ロボット相談窓口を通じて、各企業に試用貸出の申し込みが可能です。(在庫や企業側の事情等によって、希望どおりの貸出ができない場合もあります。)

※同リストを参照されたい場合は、「上記QRコード」又は「下記URL」にアクセスしてください。

<http://www.techno-aids.or.jp/robot/file04/2022rentallist.pdf>

〔相談窓口の外観〕



〔介護ロボット体験展示コーナー〕



【連絡先】

愛媛県介護ロボット相談窓口

(愛媛県社会福祉協議会 愛媛県介護実習・普及センター内)

TEL 089-921-8348

FAX 089-921-3398

E-mail chouju@ehime-shakyo.or.jp

〒790-8553 松山市持田町三丁目8番15号



令和4年度愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業

基調報告

ノーリフティングケアの 効果等について

2023.3.20



愛媛県介護実技普及指導員
守谷理佐 井下ゆかり

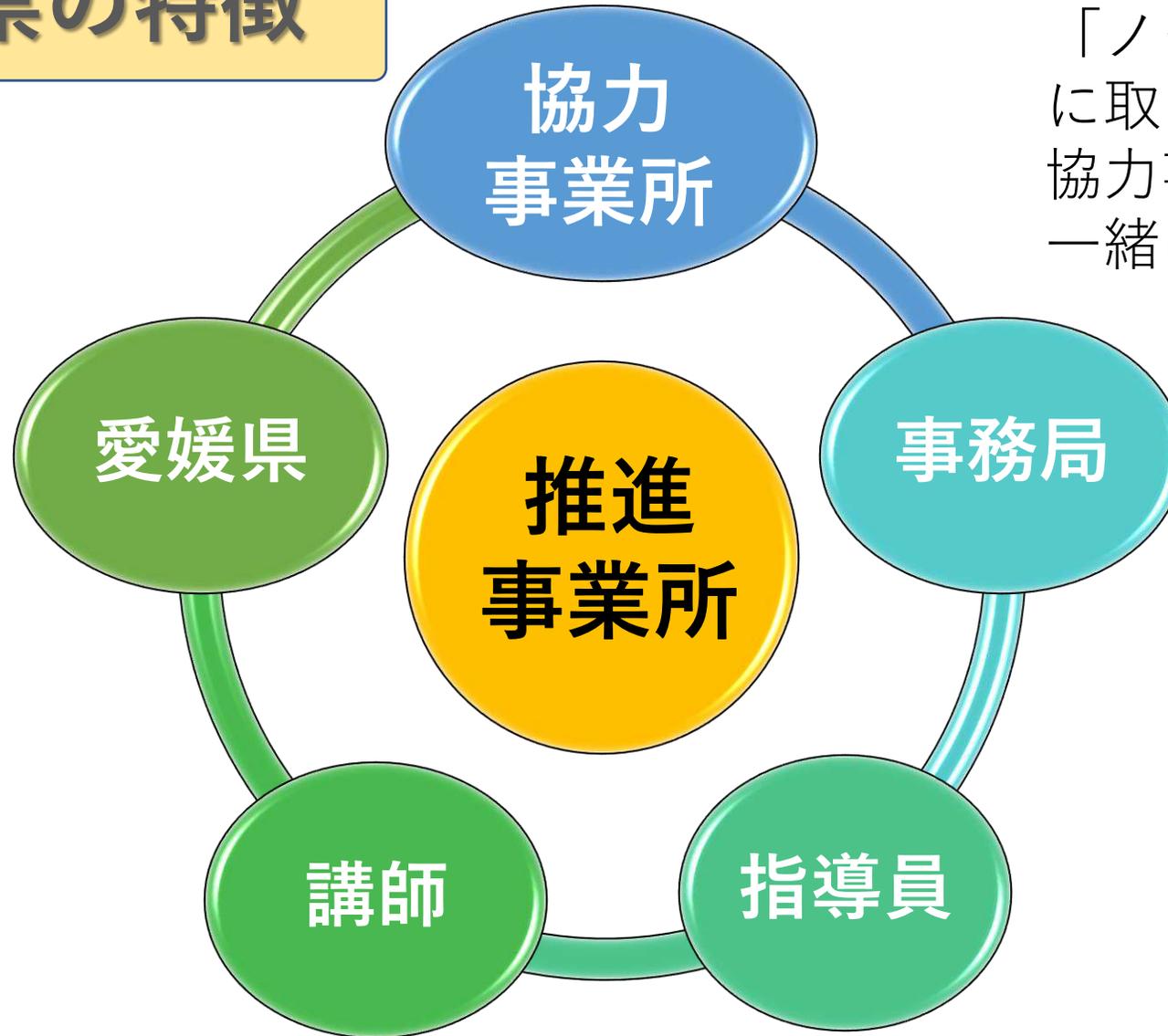
目次

1. はじめに
2. ノーリフティングケア普及啓発事業の目的
3. ノーリフティングケア普及啓発事業の流れと課題
 - ・実施内容
 - ・今年度の課題
4. 令和4年度導入前アンケートについて
5. ノーリフティングケア普及啓発事業の効果について

はじめに 令和4年度 愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業

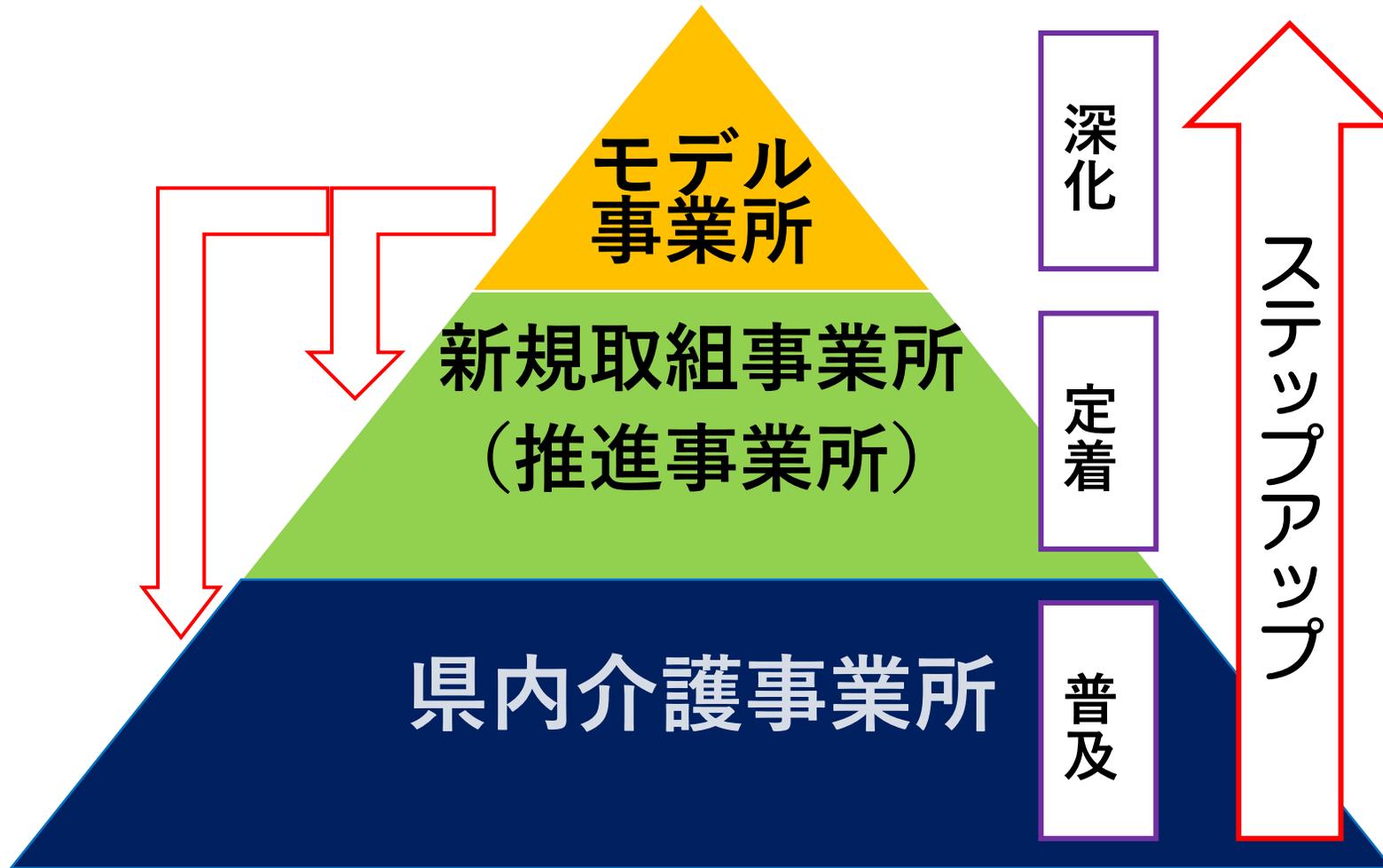
- 愛媛県
- 愛媛県社会福祉協議会
- 愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業 推進事業所
- 令和元年～令和3年度の
愛媛県ノーリフティングケア普及啓発モデル事業所が協力事業所として参加
 - ・特別養護老人ホーム ル・ソレイユ
 - ・特別養護老人ホーム みどりの郷
 - ・デイサービスセンター かおり
 - ・老人保健施設 ふじの園
 - ・地域密着型特別養護老人ホーム 開明の杜
 - ・特別養護老人ホーム つわぶき荘
- 愛媛県介護実技普及指導講師・指導員

愛媛県の特徴



令和元年～3年度
「ノーリフティングケア」
に取り組んだ事業所が
協力事業所として
一緒に訪問し、アドバイス

【モデル事業所は指導的存在へ】



愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業の目的

- 介護従事者の離職防止
- 介護人材の安定的確保



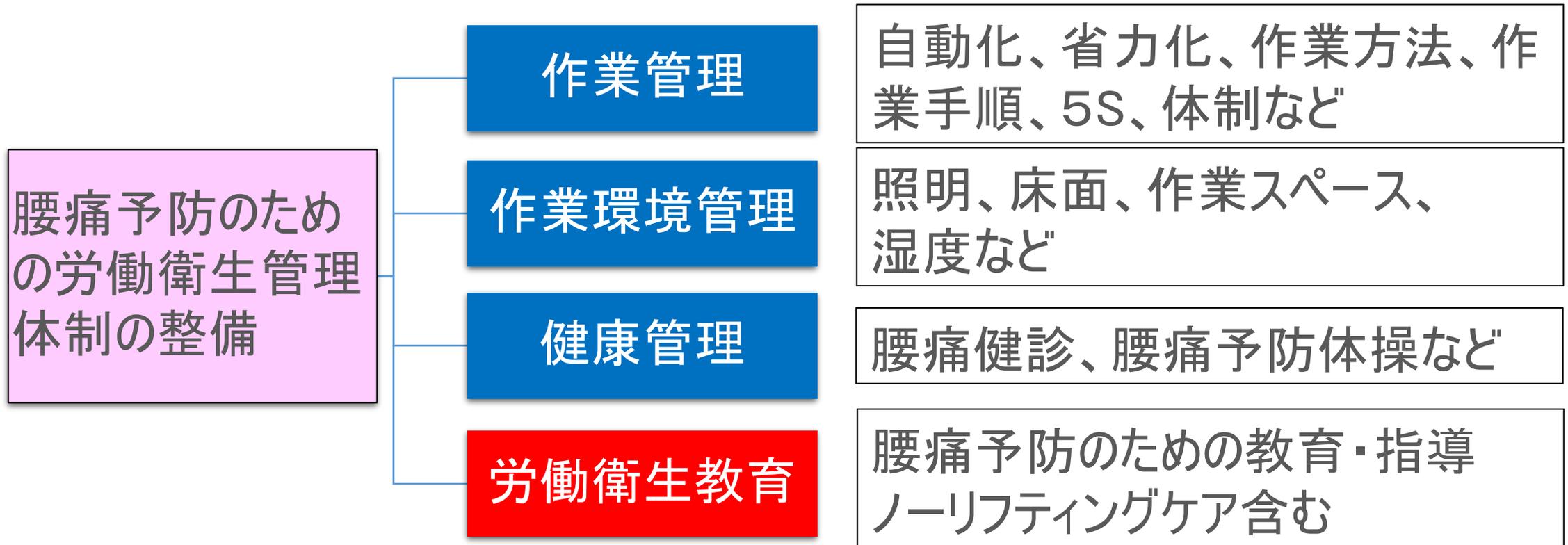
- 要介護者及び介護従事者双方の負担軽減
- ケアの質の向上



- 要介護者の自立度を考慮した適切な福祉用具・機器の活用
- 身体機能・構造に即した介護技術の実践
- 介護従事者が、腰痛など職業に起因する健康上の不安なく働くことができる職場環境作り

労働衛生管理体制

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署



- ◆リスクアセスメントを行い、作業管理、作業環境管理、健康管理、労働衛生教育を的確に組み合わせて、総合的に実施
労働安全衛生マネジメントシステムの活用が重要

◆介護者の負担軽減

労働衛生管理

- ・働きやすい環境づくり

腰痛予防、勤務体制、服装・靴、段差、空調、5S、福祉用具など

◆利用者の負担軽減

- ・自立支援

トータルセーフティケア

(24時間の姿勢管理)



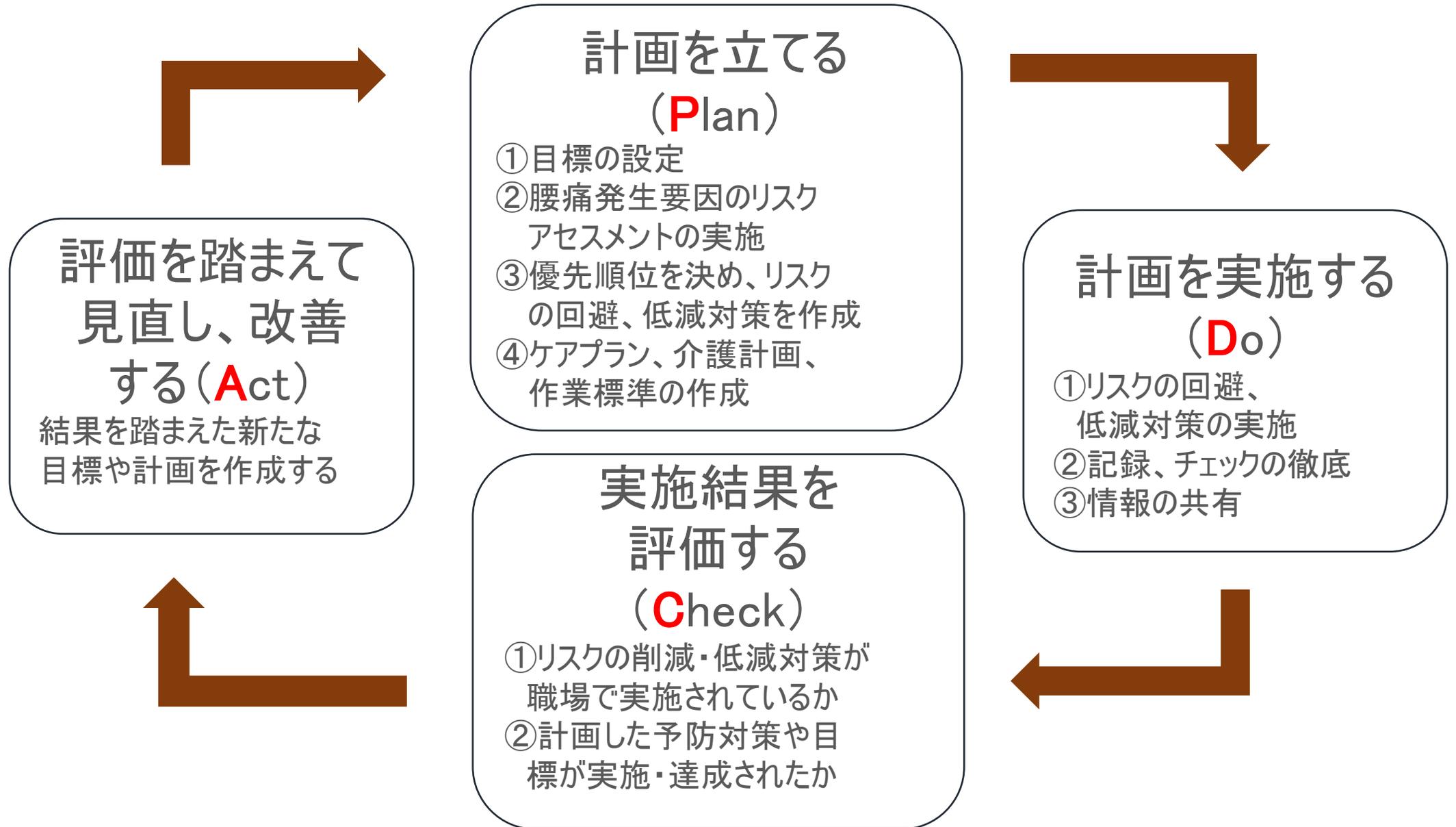


愛媛県ノーリフティングケア

利用者・介護者
双方の安心・安全

負担軽減

ノーリフティングケア普及啓発事業におけるPDCAサイクル



**令和4年度
普及啓発事業の流れと
課題**

【愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業】

1. 全体会
2. 実施前調査（導入前アンケート、リスク見積等）
3. アドバイス研修①
4. 個別研修①②、居室等巡回
5. 導入後アンケート（事業所によって延期）
6. アドバイス研修②、居室等巡回
7. 実践報告（愛媛県ノーリフティングケア普及啓発セミナー）

1. 全体会

1. ノーリフティングケアの目的、意識の統一についての説明
2. 介護者の負担軽減としてからだの使い方について研修
3. ノーリフティングケアに有効な福祉用具の特徴と使用方法

⇒各推進事業所に持ち帰り、伝達講習を実施

1. 全体会

課題① 事業所での職員への目的等の伝達や技術的な講習

- ・全体会は、代表者だけの参加のため、全員への伝達が難しい
- ・今の介護を続けることで起こりうるリスクが理解されていない
- ・福祉用具がないため、技術的な伝達が難しい など

課題② どうしても用具導入が目的のようになってしまっている など



2. 実施前調査

1. 全体会にて様式1～7の説明
2. リスク見積り書～実施計画書の作成（研修後に変更もあり）

課題①

- ・訪問によるアドバイス研修・個別研修までの期間が限られており、対象となる全ての利用者の把握と実施は難しい
- ・職員への実施計画書の周知・技術の伝達ができない
- ・有効と思われる用具の導入ができていない

課題②

- ・導入後アンケートの実施が未定の事業所もある
（腰痛軽減等の検証に至っていない等）

3. アドバイス研修①

●アドバイス研修①

- 協力事業所(モデル事業所)へ訪問し、取組を行った経験から様々なアドバイスを受ける
- リスク見積り書・実施計画書等の確認を行う



4. 個別研修①②、居室等巡回

● 個別研修①②

利用者の負担軽減についての研修

①「姿勢を見る」

②「姿勢を整える」



6. アドバイス研修②・居室等巡回

●アドバイス研修②

推進事業所の進捗状況を確認

協力事業所からのアドバイスを受ける

●居室等巡回

推進事業所の都合で巡回の時期はそれぞれだが、

実際の施設内の確認と

利用者の居室を訪問して姿勢についてアドバイスを行う

6. アドバイス研修②・居室等巡回

課題① 延期が相次ぎ、思うように訪問ができなかった

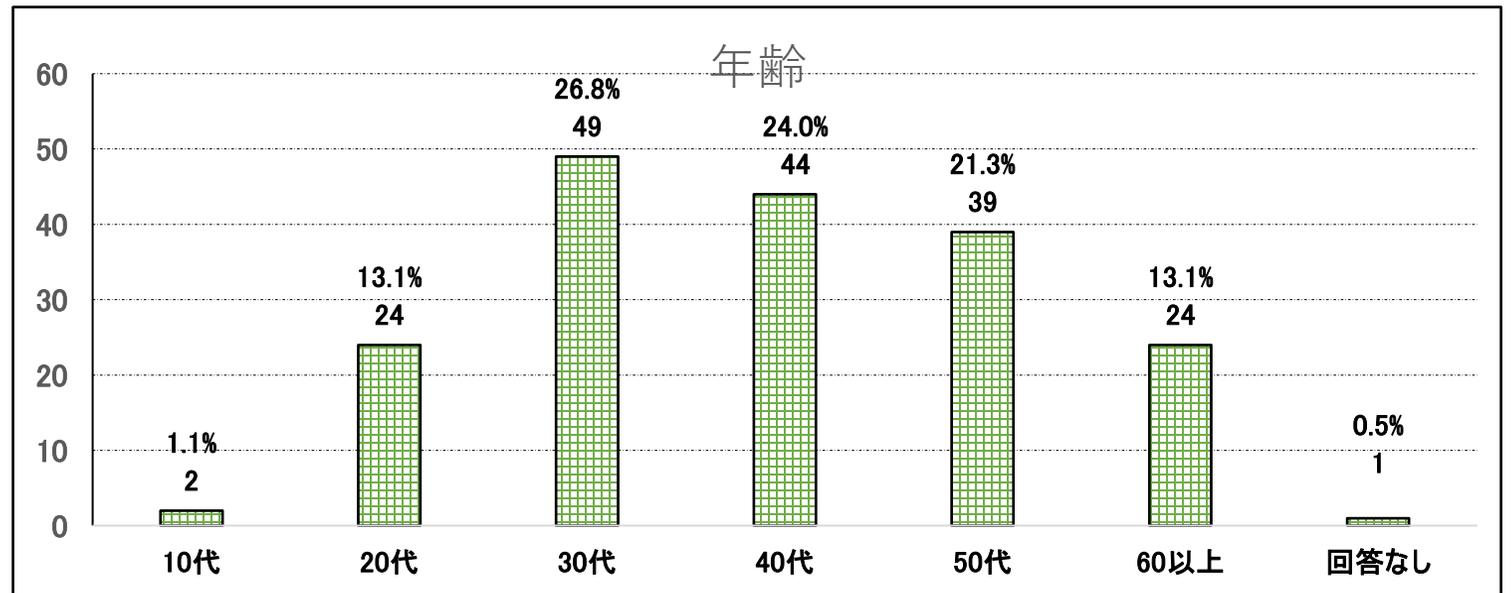
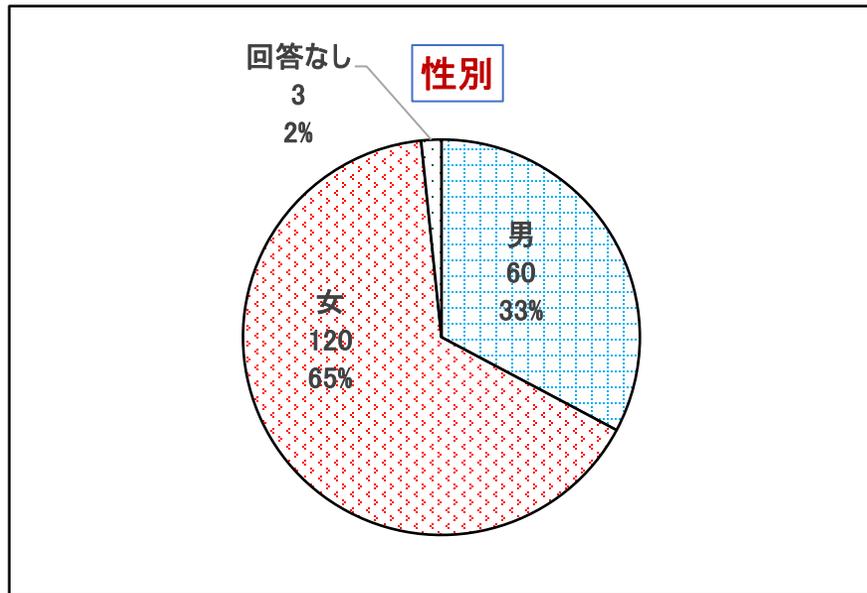
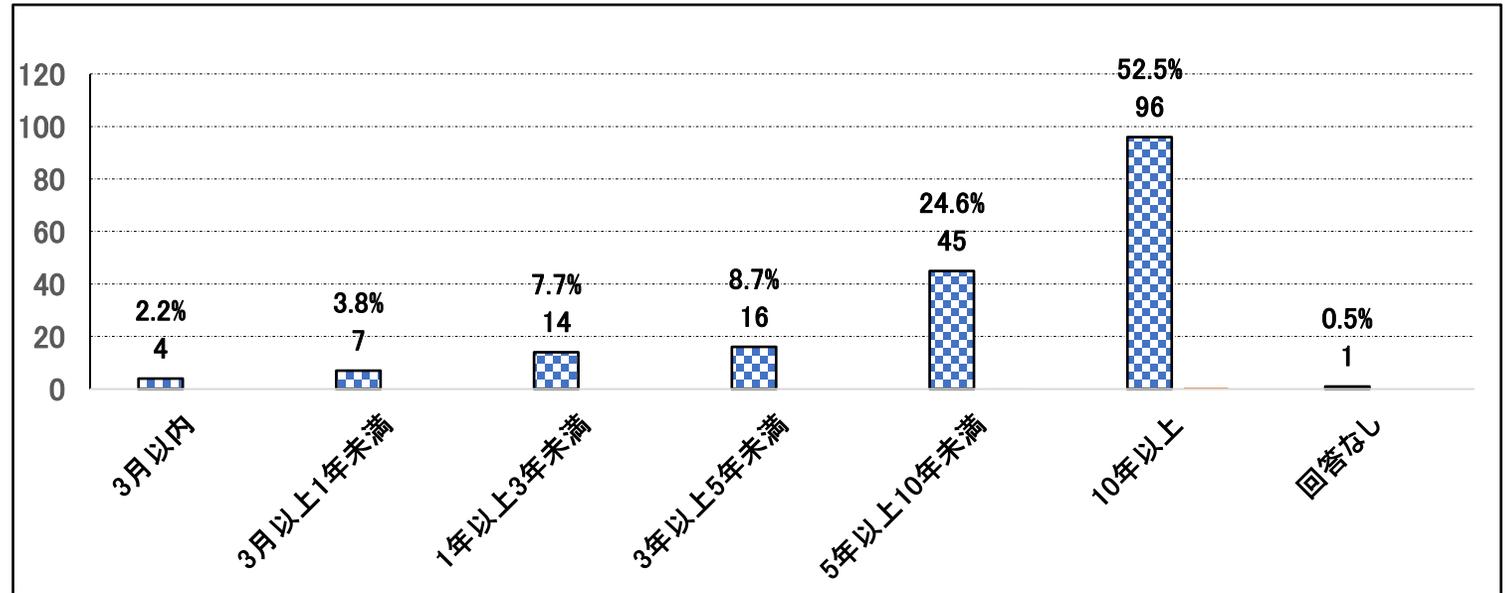
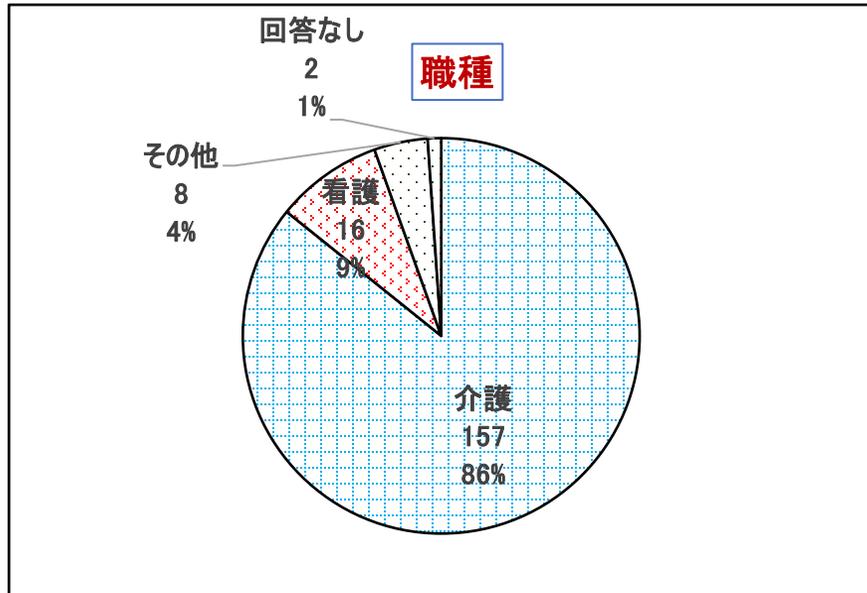
- ・1事業所は第1回アドバイス研修のみの実施となる
(協力事業所、協力指導員も活動に参加できていない)
- ・個別研修が3月初旬で終了、その後すぐにアドバイス研修

課題② 個別研修の効果や、自分たちで行ってみたいの疑問や課題に

- 対して、アドバイス研修で助言を行う予定であった
⇒来年度に向けてもフォローアップが必要と思われる

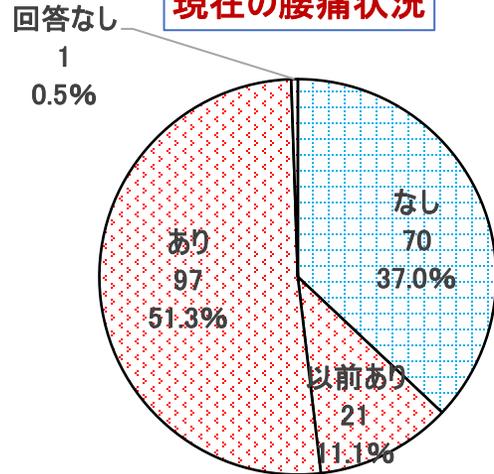
令和4年度
導入前職員アンケート
結果・分析

導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183

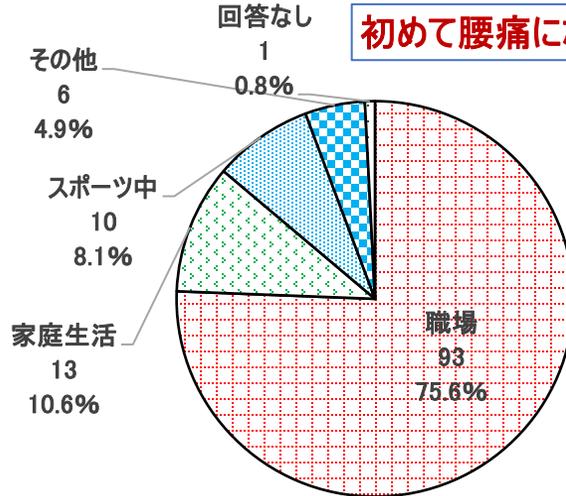


導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183

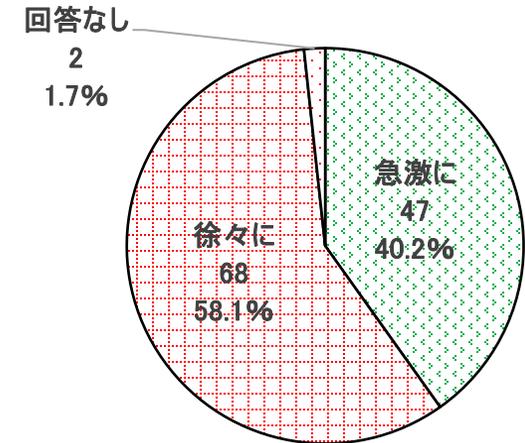
現在の腰痛状況



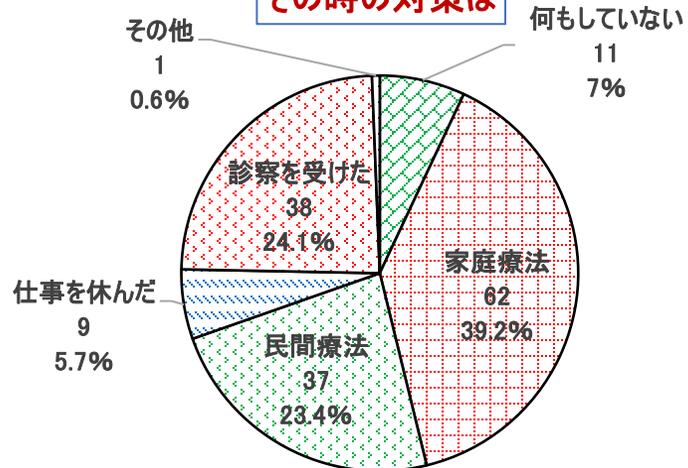
初めて腰痛になった原因は



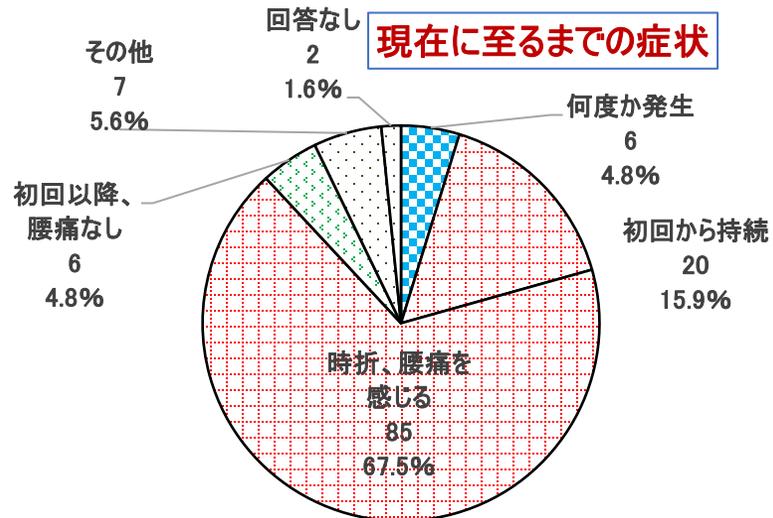
その時の起こり方は



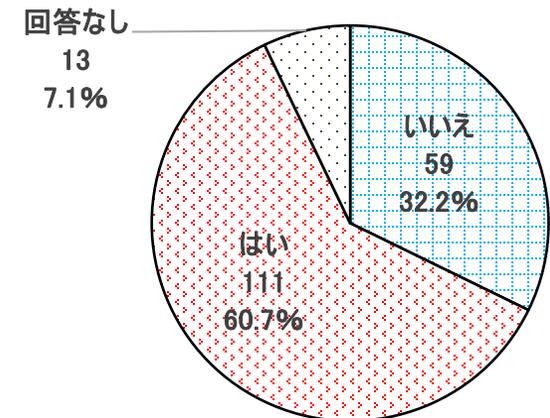
その時の対策は



現在に至るまでの症状

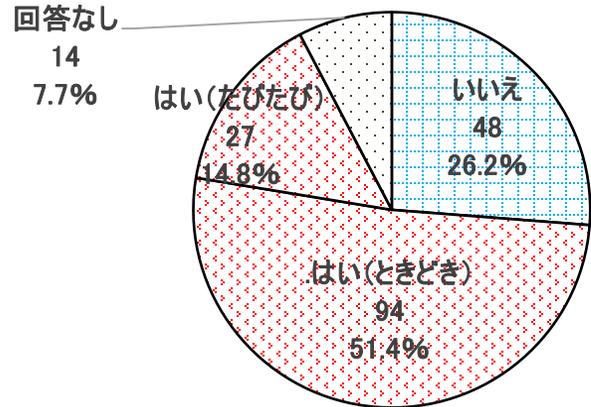


現在腰痛はありますか

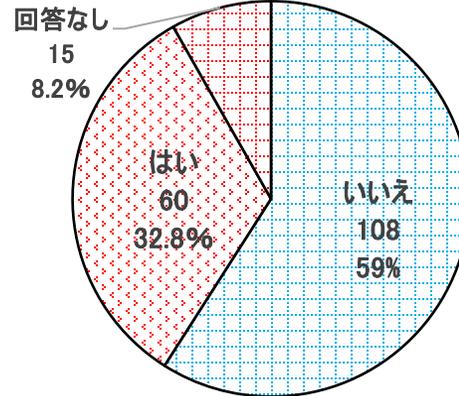


導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183

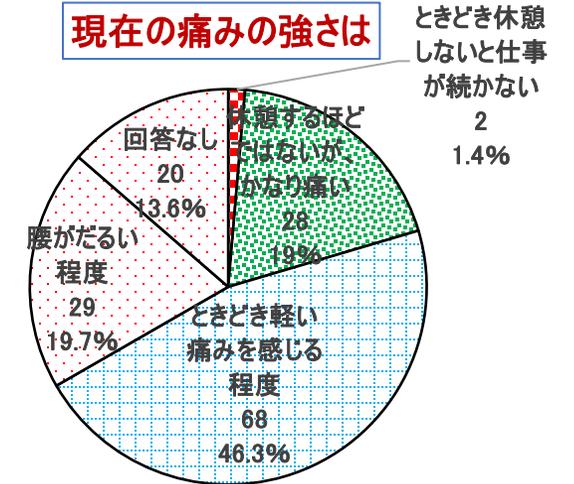
現職に就いてから腰痛になった



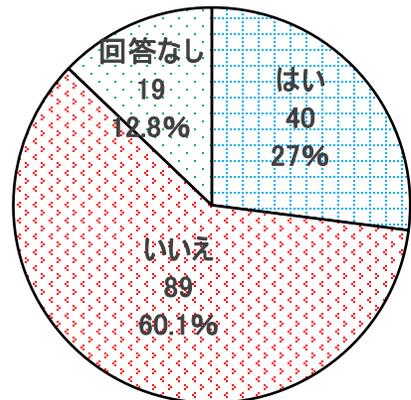
現職に就いてから腰痛が激しくなった



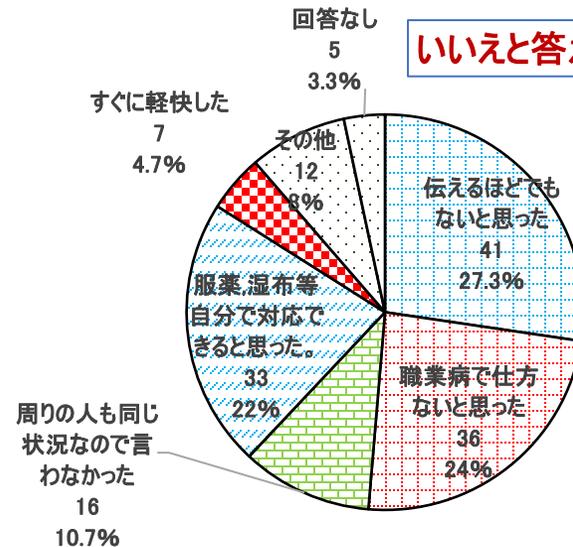
現在の痛みの強さは



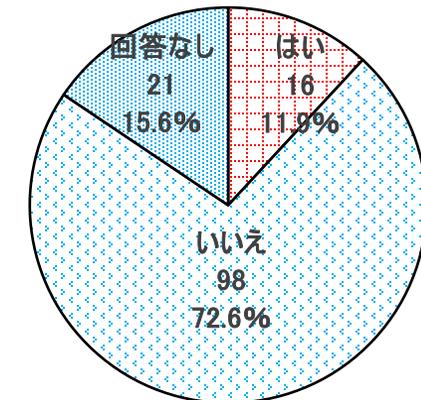
管理職に伝えたか



いいえと答えた理由

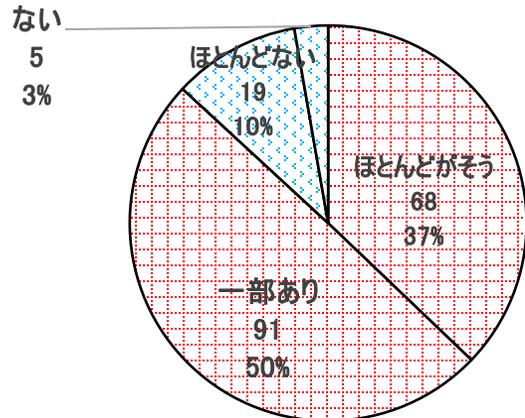


現在治療を受けている



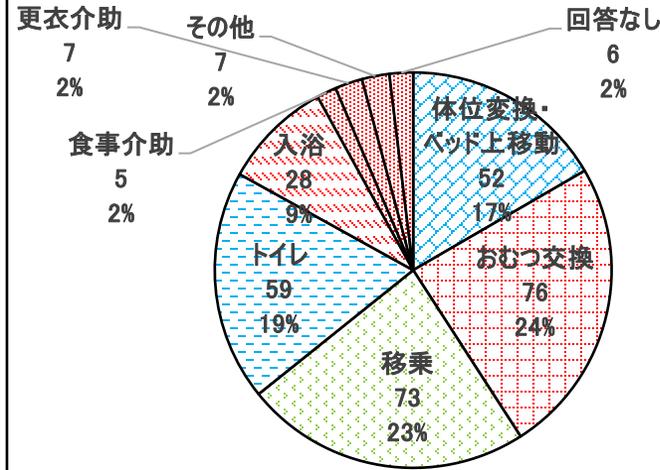
導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183

持ち上げや引きずり介助はあるか

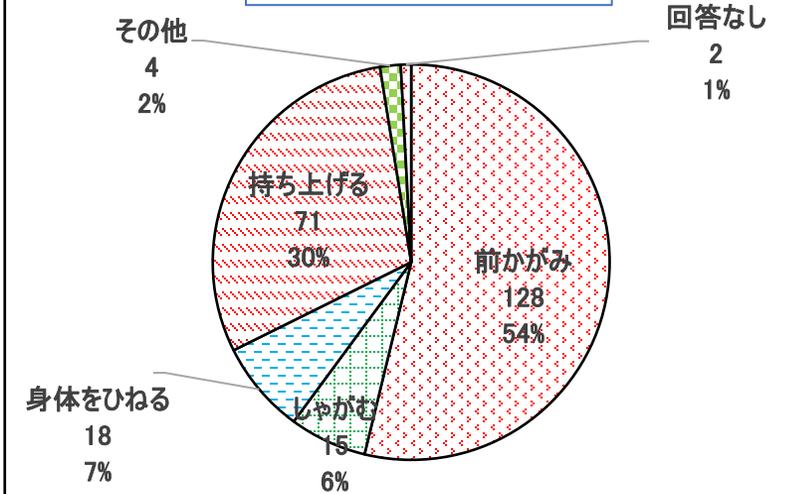


持ち上げ等の介助
87%行われている

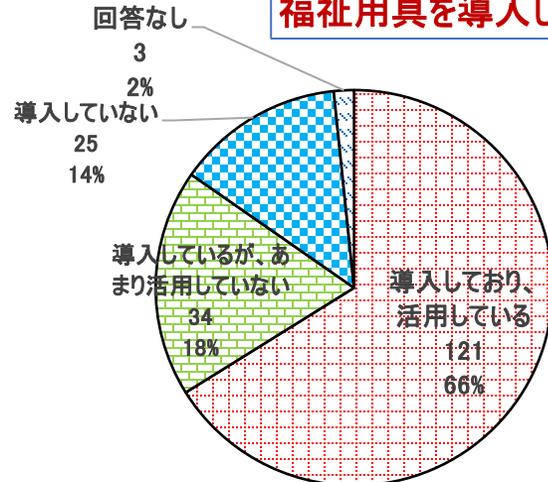
負担の大きい介助場面



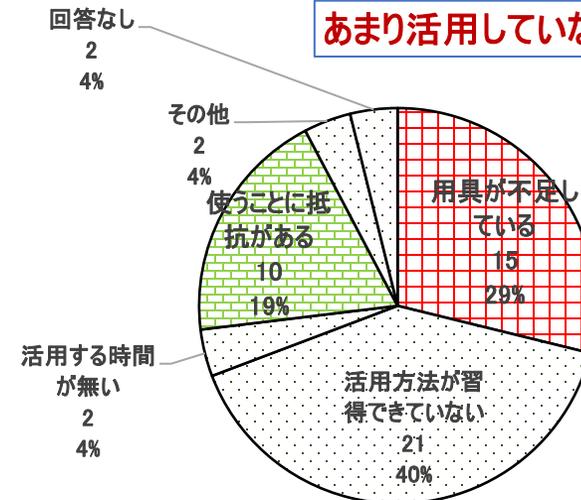
負担の大きい介助姿勢



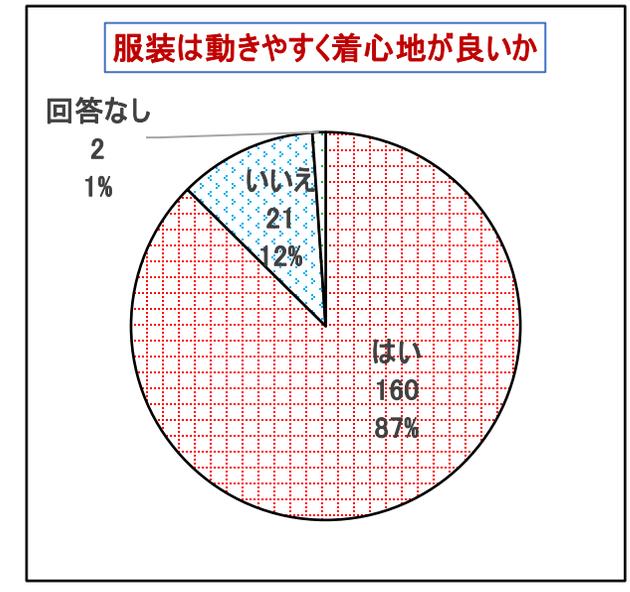
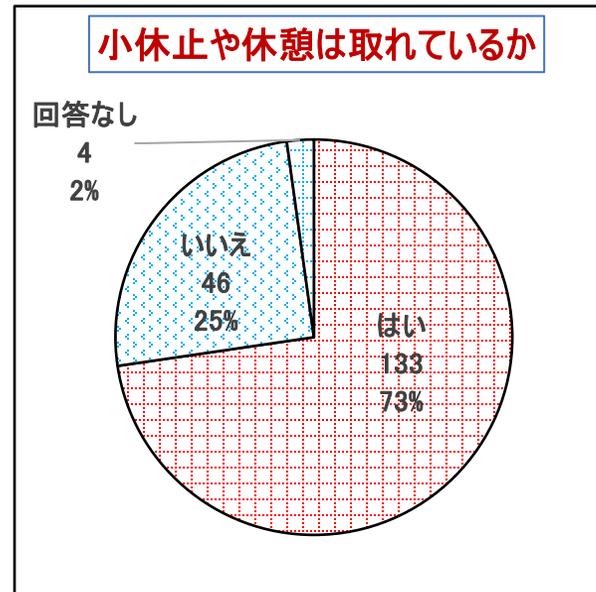
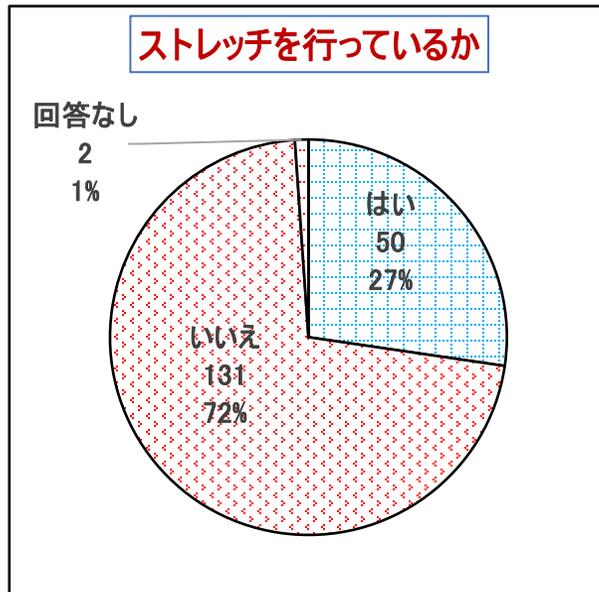
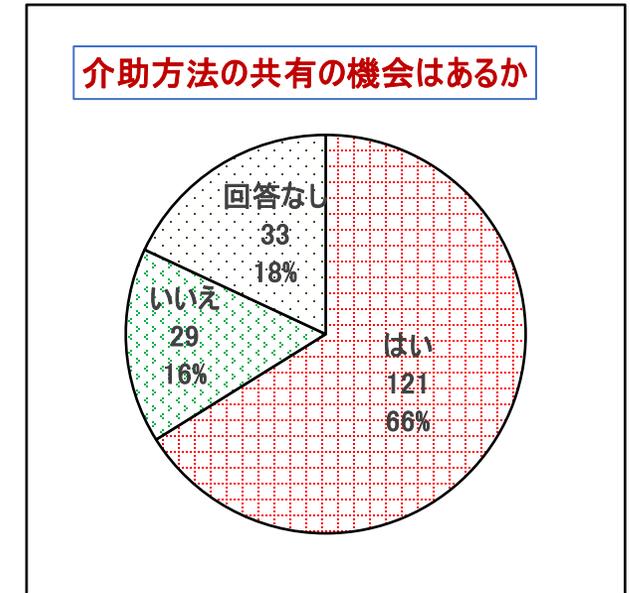
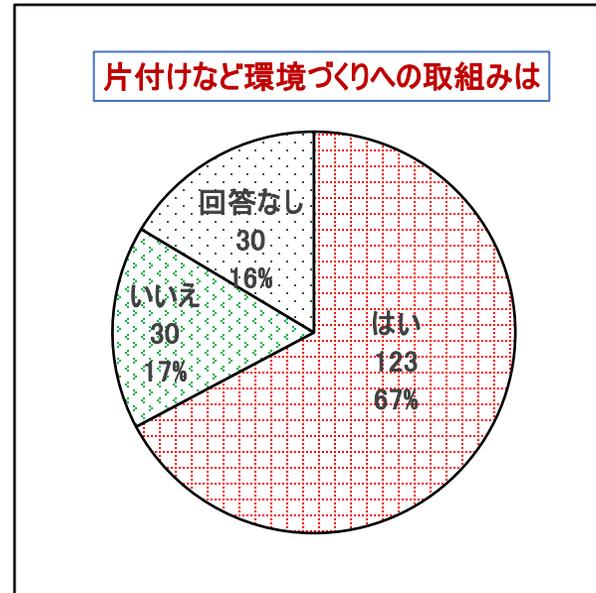
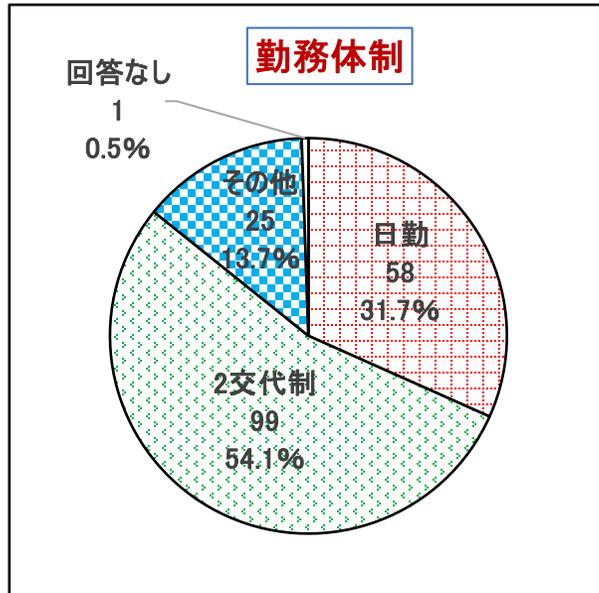
福祉用具を導入しているか



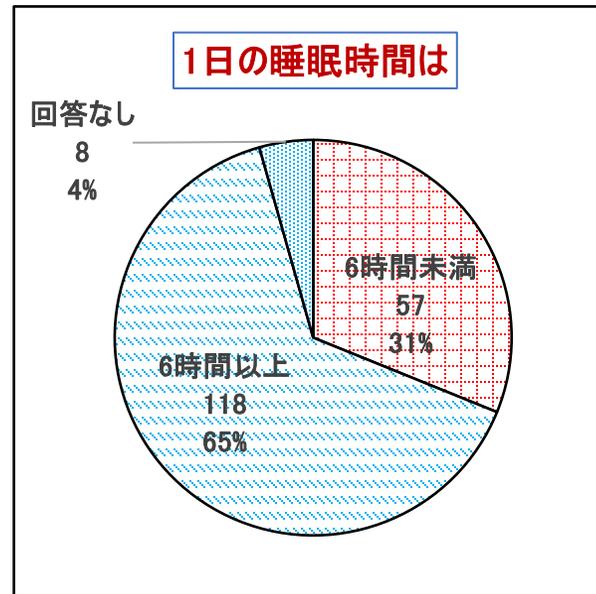
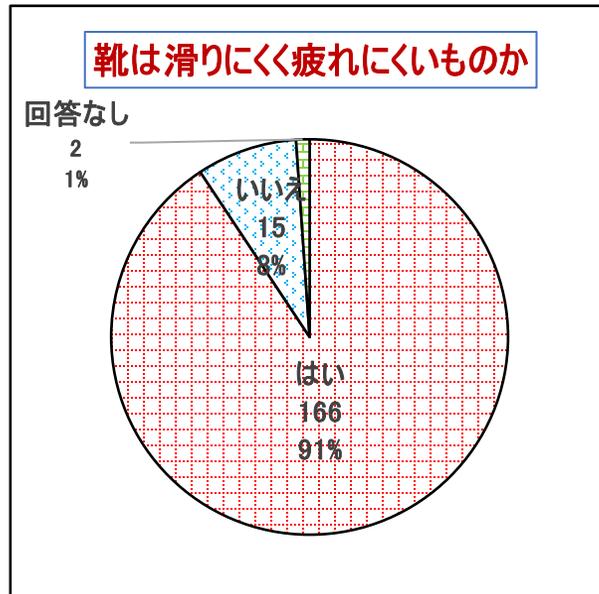
あまり活用していない要因



導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183



導入前職員アンケート結果(6事業所合計)n=183



腰痛との関連性:

疲労回復の阻害因子

・勤務体制:

夜勤2交代 > 3交代 (夜勤者は仮眠が重要)

・準備運動の大切さ

・筋疲労による酸欠

・服装は通気性・伸縮性・保湿性のあるもの

・靴は滑りにくく衝撃に強いもの

・睡眠時間:

6時間以下は腰痛 ↑

仰臥位は修復する姿勢

導入前職員アンケートの結果、
実態を把握した上で利用者アセスメントを行い、
双方の負担を軽減させるアプローチを実施

A large red triangle pointing to the left, serving as a background for the text.

ノーリフティングケア
普及啓発事業の
効果について

【ノーリフティングケア普及啓発事業での事業所の変化】

●事業所全体として

- ・協力事業所のアドバイスを受けることで、より具体的な取り組みの進め方など参考にすることができた
- ・協力事業所も推進事業所にアドバイスをを行うことで事業所の取り組みの振り返りになっている
- ・施設の課題に向き合う機会となった
(利用者のリスク見積と職員の負担状況の把握)
- ・環境改善に取り組んだ事業所もある
(電動ベッドの普及や介護ロボット導入に向けての問い合わせ)
- ・全体を通して「意識」が変わったのではないかと感じる



【ノーリフティングケア普及啓発事業での事業所の変化】

- 「姿勢を見る、姿勢を整える」の個別研修と居室等の巡回
 - 利用者に対して**意識の変化**が見受けられる(ほとんどの事業所)
利用者の「**負担軽減**」は何かが伝わる
 - 自分たちが実際に研修で体験したことで理解が深まる
⇒**双方のリスクと負担軽減**の根拠と方法がわかる
 - 自分たちのからだの使い方、ケアの見直し
⇒利用者を見る**視点が変わってきている**

双方の安心・安全、ケアの質の向上
本来の目的(真の目的)が伝わる



今年度の効果の継続と課題の検討を行い
次年度も

利用者が、「**安心・安全な介護**」を受けられること
職員が、「**安心・安全な介護**」を提供できること
【労働衛生管理とトータルセーフティケア】



それが当たり前になるように
これからも取り組んで行きたいと思います



ご清聴ありがとうございました

愛媛県ノーリフティング ケア普及啓発事業



社会福祉法人 まこと
特別養護老人ホーム しあわせの家

施設の紹介



施設名：特別養護老人ホームしあわせの家

所在地：四国中央市豊岡町

設立：平成15年10月

定員：100名

併設：短期入所生活介護（20床）

通所介護（40名）

居宅介護支援事業所



経営理念

夢あふれるシルバターの輝き
～まことのしあわせを求めて～

応募理由

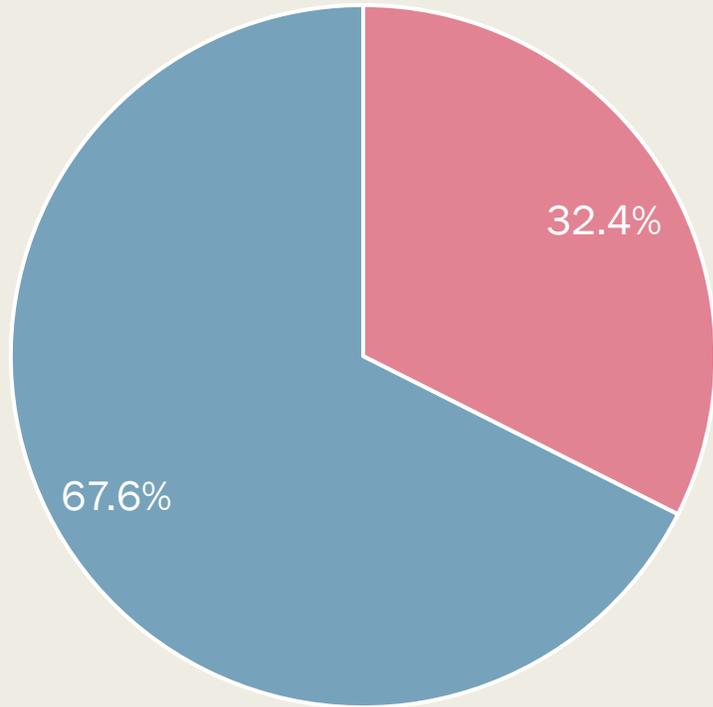
- 当施設ではノーリフティングに何度となく取り組んできていたが、いつの間にか従来の体制に戻ってしまい定着せず、今年度のノーリフティングケア普及啓発事業に申請し取り組むことで、継続かつ適切にノーリフティングケアに取り組み、利用者様に対しより良いケアを行いたい。

予定

1. 選考事業所に対する事業説明会
2. ノーリフト推進委員会の設置 9月30日
3. 事前調査等
4. アドバイス研修 10月13日
5. 導入研修 10月24日～28日（計9回 全介護職員対象）
6. 実践者研修
 - ・ 第1回 12月5日（月）19：00～21：00
 - ・ 第2回 3月6日（月）19：00～21：00
7. アドバイス研修 3月15日
8. 実践及び施設内研修・定期的な研修
9. 事業全体の評価・報告 令和5年3月20日

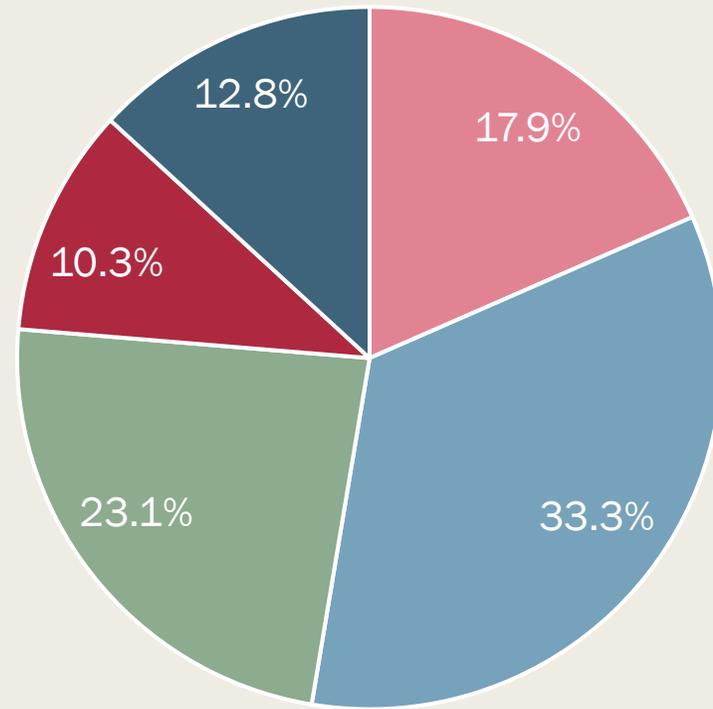
導入前アンケート①

男女比



■男 ■女

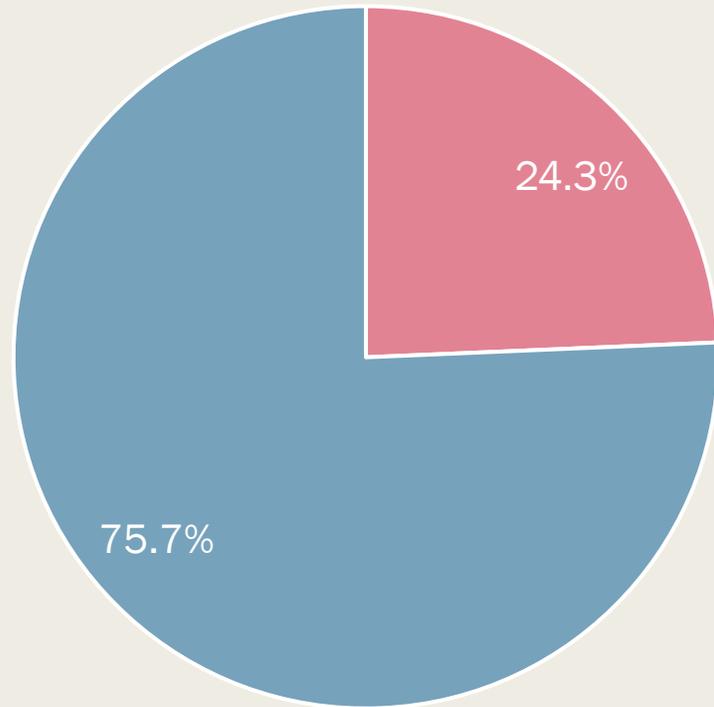
年齢比



■20代 ■30代 ■40代 ■50代 ■60代

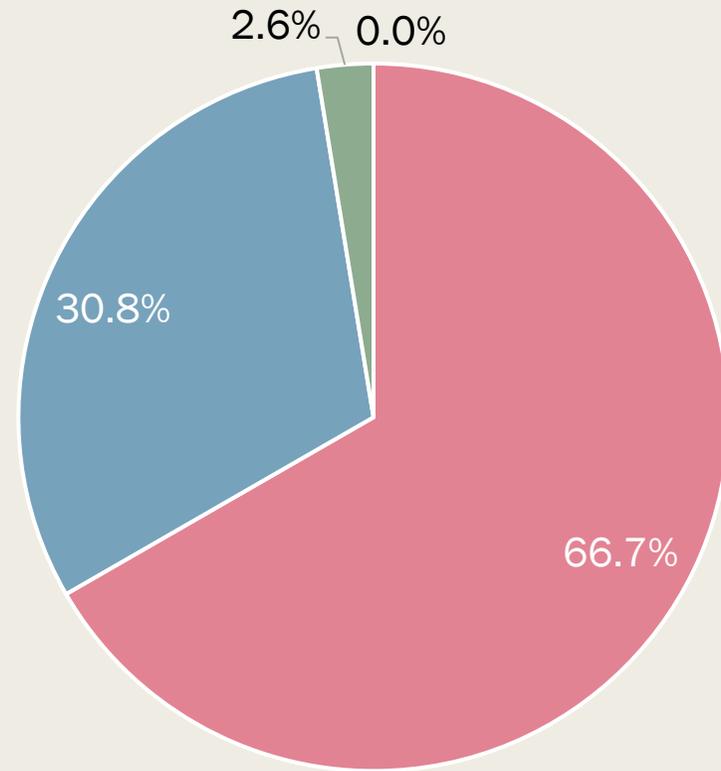
導入前アンケート②

腰痛の有無



■ いいえ ■ はい

持ち上げたり引きずったりする



■ ほとんどそう ■ 一部あり ■ ほとんど無い ■ ない

ノーリフティング実施計画書

No.	課題	長期目標	期間	短期目標	期間	具体的内容
1	ノーリフティングケアを行う事は当たり前という意識を付けたい。	ノーリフティングケアに対する意識を変え、継続的に利用者様にサービスを提供する。	6ヶ月	ノーリフトに取り組むことに対する意欲をあげる。	3ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> ① ノーリフティング宣言を行う <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営層が組織として取り組むことを宣言する。 ① 伝達研修の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ ノーリフティングに対する技術や、基礎的な知識についての勉強会を開催し現在のノーリフティングケアについて学び今後のケアに生かす。 ① 各グループ会・カンファレンスで検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月行うグループ会とカンファレンスにおいて、現状の介護の内容が適切かを話し合う。 ・ グループ会内で知識や技術の伝達・共有を行う。
2	ノーリフティングケアに対する意識統一を図り全員が同じケアを利用者様に提供する事ができる。	介護に係るスタッフ全員が意識統一してノーリフティングケアに取り組む事ができる。	6ヶ月	介護に係るスタッフ全員がノーリフティングケアの目的を理解できる。	3ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> ① ノーリフト推進委員への研修を実施して指導者を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 推進に係る主要メンバーの理解を深め、職員へ波及させる。 ① ノーリフト推進委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会を開催し、施設としての方針や今後の施設としての動きを伝える事で、取り組むべき内容を理解する。
3	移乗介助の負担を減らし、スタッフが腰痛等の発生を防ぐ。	腰痛による離職者を出さない。	6ヶ月	介助時の体の使い方、福祉用具の使用方法を標準化できる。	3ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> ①スライディンググローブ <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用時の作業標準書の作成 ②スライディングシート <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用時の作業標準書の作成

導入研修



- 少人数で行う
- 県社会福祉協議会動画使用
令和2年度愛媛県ノーリフティングケア
普及啓発セミナー動画使用
- 福祉用具体験

第1回 個別研修

令和4年12月5日 姿勢の見方

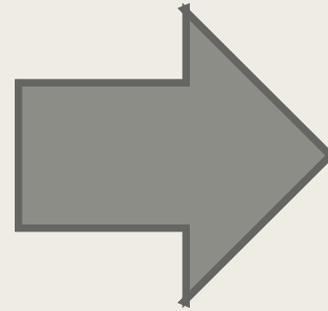


第2回 個別研修

令和5年3月6日 姿勢の整え方



アドバイス研修



まとめ

- 私たちのノーリフティングケアの取り組みは、歩み始めたばかりです。今後この歩みを止めることなく、利用者様の為しいては職員の為に、継続し取り組んでいく必要性があります。

愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業 実践報告

- ▶ 社会福祉法人 悠々会
- ▶ 特別養護老人ホームシルバーハウス吹揚
リーダー 河野祥三
サブ 曾我部和也

特別養護老人ホームシルバーハウス吹揚

所在地 愛媛県今治市黄金町3丁目2番地6

開設 平成9年4月

施設長 真木秀和

定員 64床

(2フロア ショート4床)

平均介護度

4.2

職員人数

53名



応募理由

- 福祉用具をいくつか導入しているが、使用していなかったり正しい使い方や方法を理解できていない。
- 職員の知識不足・経験不足のまま手探り状態で使用しているため、内出血など出来てしまう事がある。また、利用者の残存機能を活かしながら使用方法が出来ていない。
- 忙しい業務の中で、手間だと思ってしまう福祉用具を使用せず、いつも通り抱え上げの介助をする職員が多く、腰痛持ちの職員が増えてきている。
- 勤続10年以上の職員も多く、昔ながらの介助を好む傾向にある。



目標

- 職員の腰痛軽減
- 全職員が福祉用具の知識・技術を身に付け誰でも安心安全に介助が行えるようになる。
- ノーリフティングケアに対する全職員の意識を変えていく。

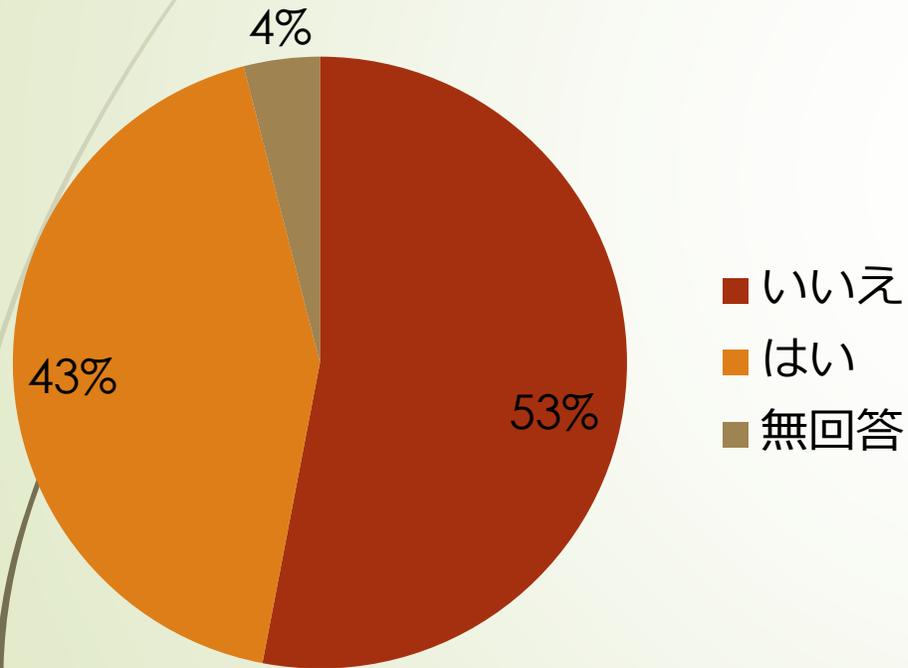


方法

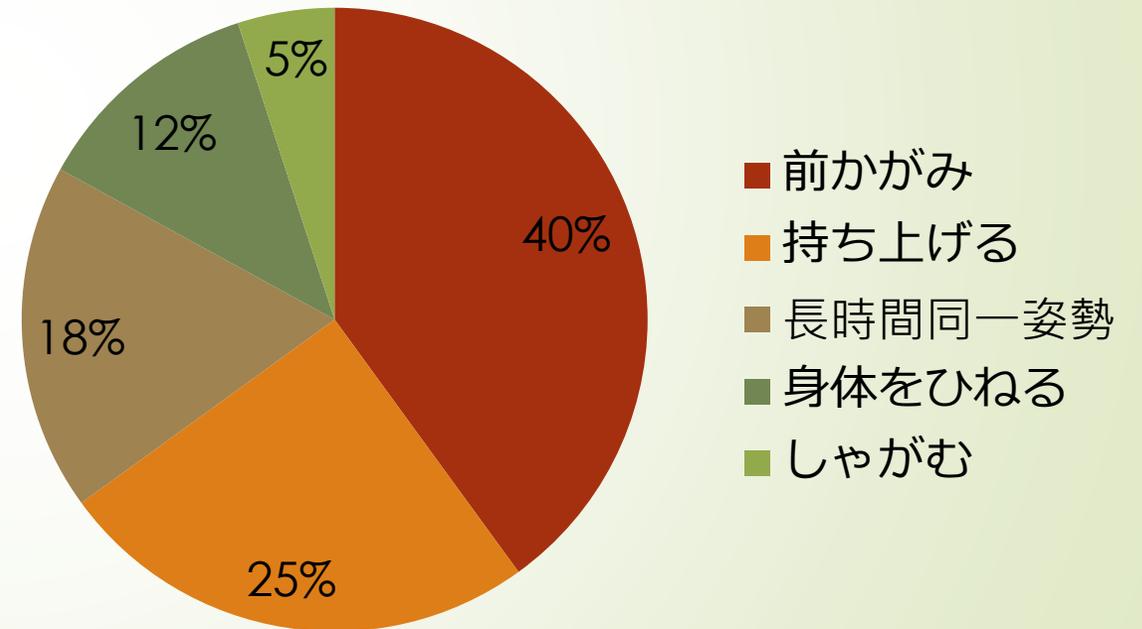
- 1、腰痛に関する事前アンケート
- 2、研修会参加後、施設内で福祉用具の体験会を実施
- 3、全職員を対象にセミナーへ参加
- 4、セミナー参加後、その都度必要な福祉用具について検討・購入する。
- 5、福祉用具購入後、ポジショニング実施
- 6、事後アンケート実施

1、腰痛に関するアンケート

現在腰痛はありますか



負担の大きい介助姿勢





2、施設内で福祉用具の体験会を実施

職員一人一人に介助する側とされる側を体験してもらう。介助する側は、自身を持って介助が行えるように練習をする。介助される側は、実際体験する事で利用者さんの気持ちが理解できる。

3、全職員を対象にセミナーへ参加

セミナー 1 回目：姿勢の見方



セミナー 2 回目：姿勢の整え方



4、福祉用具について検討・購入する。



移座えもんシート



フレックスボード



リフト



マーブルクッションD・Q



イージーグライド



マルチグローブ

※マーブルクッションは、取引業者からデモを借り、実際に使用して、対象ご利用者の緊張がゆるみリラックスしている様子が見られたので購入を決めた。

5、クッション購入後ポジショニング実施

- ・マーブルクッションD



全身に力が入って歯を食いしばっていた。



クッション使用後は、力が抜けて表情も穏やかになった。

クッション購入後ポジショニング実施

- ・ マーブルクッションQ



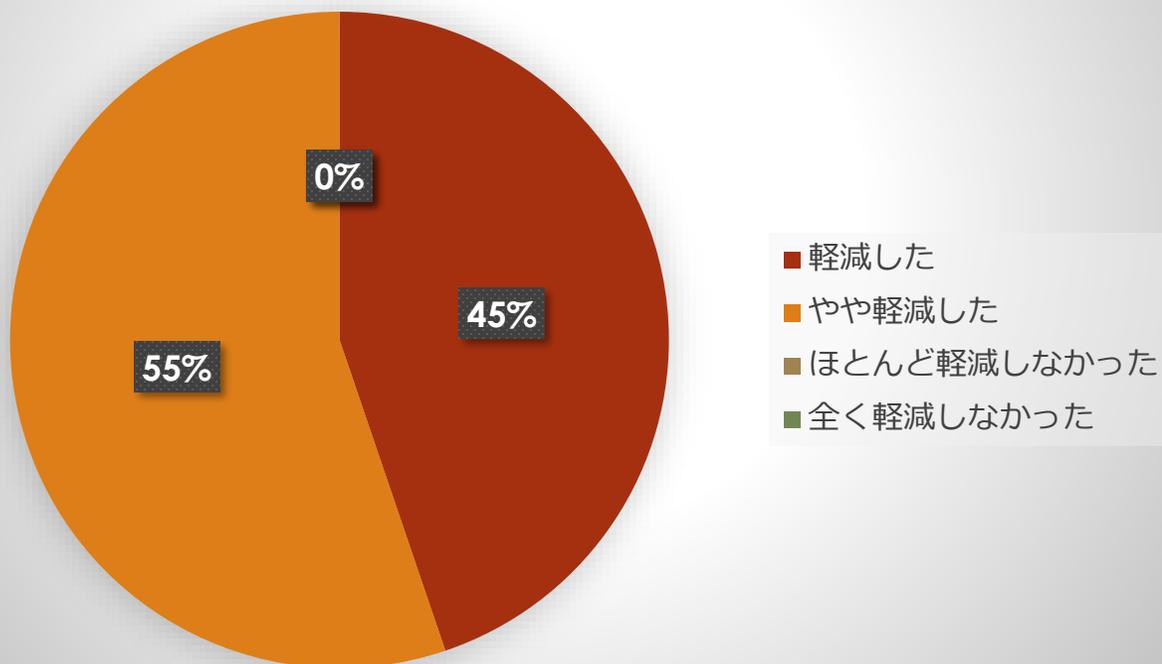
腕や肩の痛みがあり「痛い」とよく叫んでいた。



クッション使用後は、腕や肩の痛みが軽減し、叫ぶ声がほとんどなくなった。

6、事後アンケート結果

ノーリフティングケア導入したことによって、身体的負担が軽減したか？



○軽減した方の意見

・福祉用具を使用することにより時間がかかるが、抱える事が減った為、腰への負担が軽減できた。

○やや軽減した方の意見

・抱え上げの動作が無くなって腰への負担は軽減したが、手首や腕が痛くなる時がある。
・身体の負担は軽減したが、まだ一部抱え上げる場面がある。

今後の課題

- ▶ 福祉用具を使用して行く中で、利用者の状態に合わせた環境整備（居室替え・福祉用具の配置）が必要と思われる。
- ▶ 現在もまだ抱えている介助場面があるので、今後もノーリフティングケア委員を中心に利用者一人一人にあった介助方法を検討していく。
- ▶ まだまだ利用者一人に対してクッションの数が足りず十分にポジショニングができていないのが現状である。
- ▶ 施設全体のノーリフティングケアに対する意識を高めていきたい為、今後研修会等参加して知識と技術を深めて施設内に広めていきたい。

ご清聴ありがとうございました。



愛媛県ノーリフティングケア 普及啓発モデル事業実践報告

医療法人社団久和会

介護老人保健施設 ふなき久和園

佐伯成敏（介護福祉士）

岡部宏之（介護福祉士）

篠原貴子（介護福祉士）

和木健一（作業療法士）

施設概要

(従来型)

介護老人保健施設 **ふなき久和園**

- 所在地 愛媛県新居浜市船木
- 開設 平成 9年 9月
- 入所(利用)定員 80床
(2フロア、ショートステイ含む)
- 通所リハビリステーション
定員 40名

事前アンケート対象者

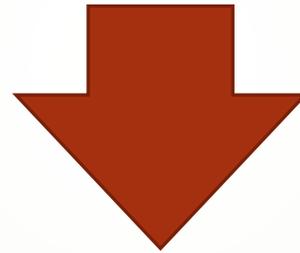
- 職員数 27名
(・介護18名 ・看護9名)





応募理由

- ・腰痛や身体的負担を訴える職員の増加
- ・身体的負担による離職者の存在
- ・力任せの介護による利用者様への心身の影響



改善目標

- ・職員の腰痛や身体的負担の軽減
- ・介護技術のスキルアップと介護人材の確保
- ・利用者様が安心・安全に生活できる環境作り



取組み内容

- ・事前アンケートの実施
- ・ノーリフティングケア推進委員会立ち上げ
（福祉用具の導入物品の選定、取組み内容の検討）
- ・ノーリフティングケアについての勉強会
- ・研修への参加〈個別研修（講師による勉強会）〉
- ・福祉用具の活用状況と事例
- ・事後アンケート結果
- ・今後の取組みについて

職員の状況・職場環境等

令和4年8月現在（導入前）

□ 職員数（入所棟のみ）

- ・ 介護職員 18名 ・ 看護職員 9名

□ 福祉用具・機器の所有状況

- ・ ベッド 80台〈内訳〉 高さ調整機能付き 17台（手動）

高さ調整機能無し 63台

（介助バー所有 10台）

- ・ 車いす 71台

〈内訳〉 スタンダード 44台 リクライニング 3台

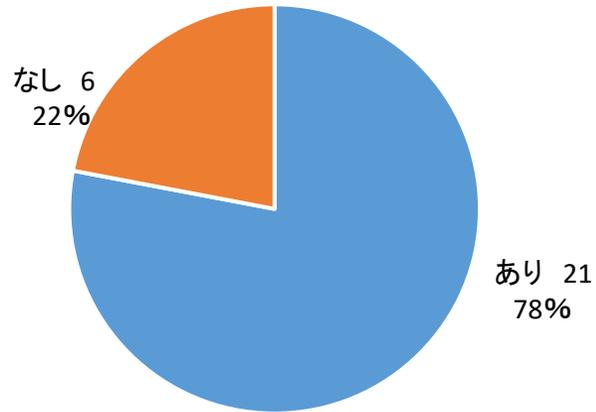
モジュール 16台 ティルト & リクライニング 8台

- ・ スライディングボード 1枚

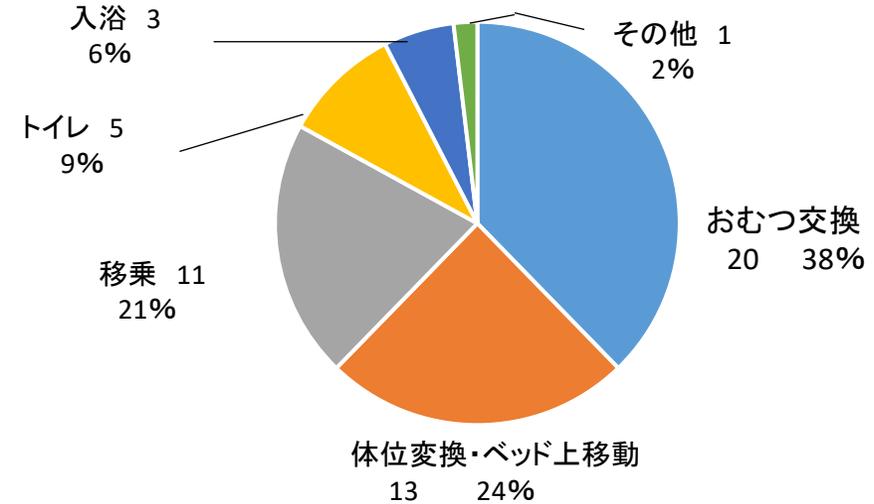
- ・ マルチグローブ 2組

導入前(腰痛に関する)アンケート結果

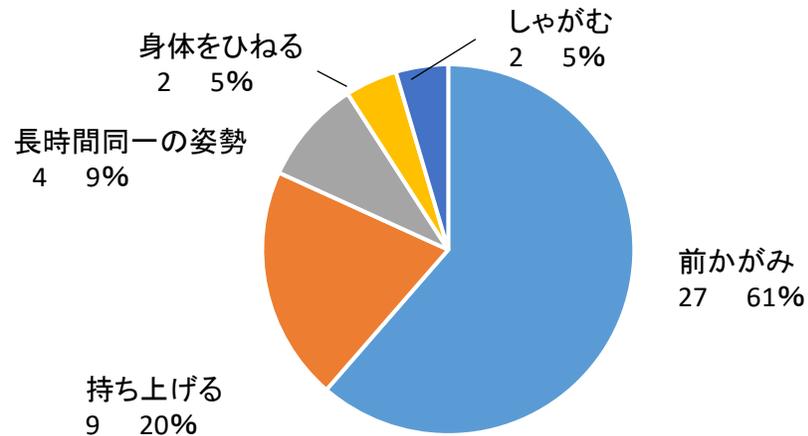
腰痛の有無



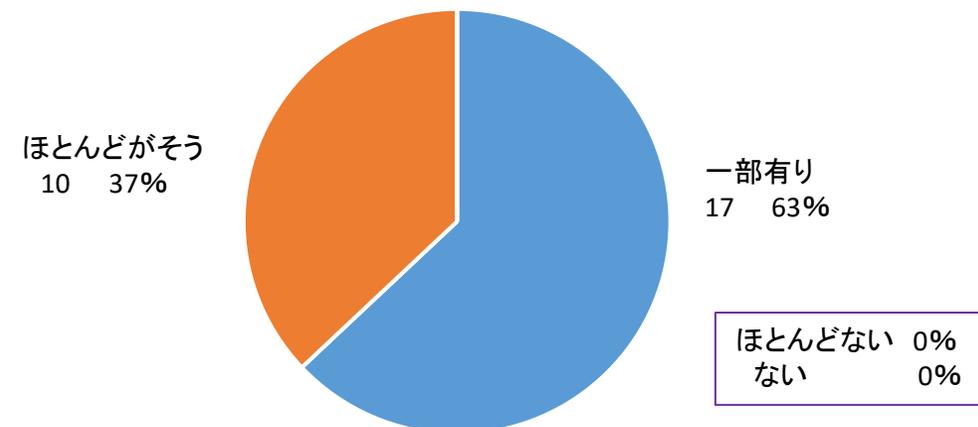
負担の大きい介助場面



負担の大きい介助姿勢



持ち上げや引きずり介助はあるか



ノーリフティングケアについての勉強会



(ズレ体験)

R4.10.5. ノーリフティングケアとは



R4.11.15. 福祉用具の使い方

・全体研修 令和4年9月8日

・アドバイス研修 令和4年10月27日
(特養みどりの郷 様にて)

・個別研修(講師による勉強会)



利用者の安心・安全「姿勢の見方」
令和4年11月24日



利用者の安心・安全「姿勢の整え方」
令和5年2月16日

福祉用具の導入物品の選定

新しく購入した福祉用具

(R4.11.11.入荷)



スライディ (モルテン)
1枚

ターンテーブル
メーカー都合で未入荷



移座えもんシート
M 2枚 ML 2枚



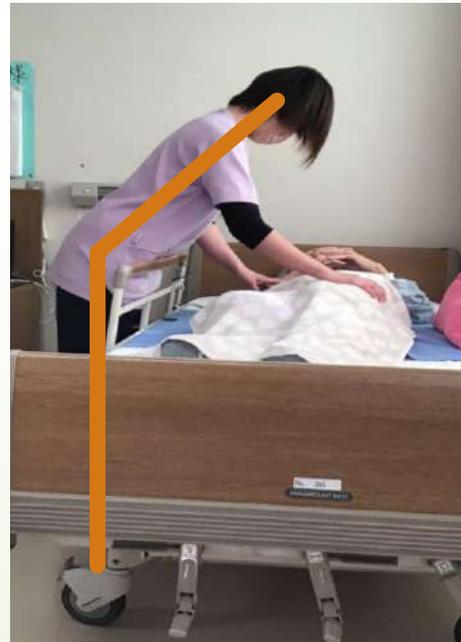
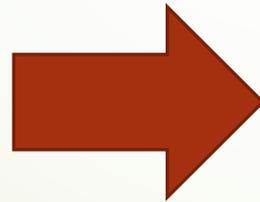
マルチグローブ
2組

取り組み内容の検討

腰痛予防の取組み（ベッド上での介助）

- ・ 高さの変わるベッド（手動）の活用ができていない
（ハンドルを回すのが面倒でそのまま使用していた）

→ 経管栄養の方、体重のある方等に高さ調整できる
ベッドを使用して高さ調整を行なうようにした



**おむつ交換での
前かがみの姿勢が
軽減できるよう
になった**

福祉用具の活用



スライディングシート
2人介助での移乗
ベッド⇒リクライニング



スライディングボード
移乗介助
ベッド⇒車いす



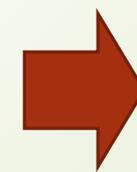
事例 1. Nさん（74歳）女性 要介護5



**リクライニング
⇒ベッド**

今までは2人介助で抱えて移乗していたが
スライディングシートを使用し2人介助で
滑らせて移乗するようにした

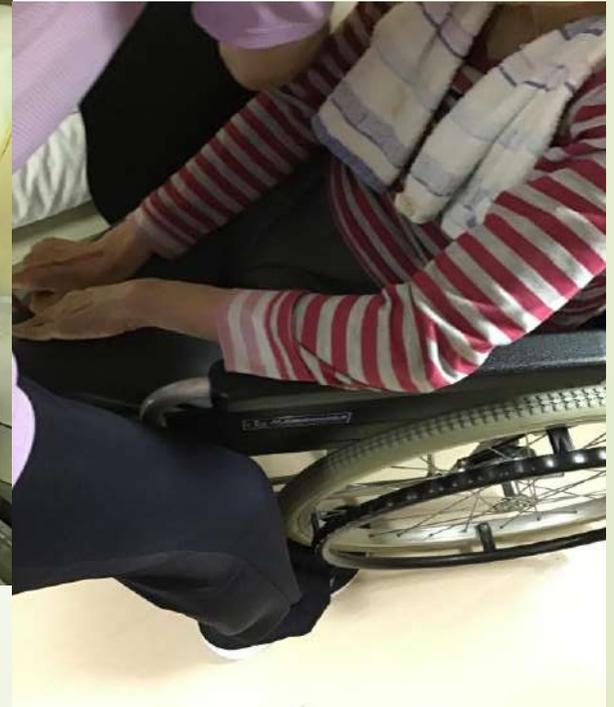
**壁に介助手順を
掲示した**



**持ち上げないので
余分な力を使わず
楽に介助できる**

事例 2. Tさん（82歳）女性 要介護5

ベッド⇒車いす
スライディングボードを
使用しての移乗



下肢に内出血ができることが多かったが
移乗方法を変えてからはできなくなった

事例 3. Yさん (95歳) 女性 要介護3



臥床時の
ポジショニングを
指示して実施する

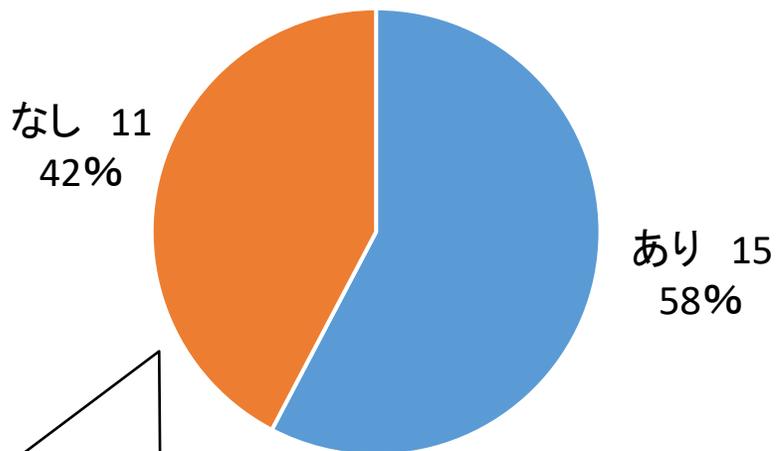


体動が激しい方で 体交は行なっていなかった
12月初め活気がなくなり食欲低下、拘縮も進む
R5.1.21. 左肩に褥瘡が出来てしまった

数日後から身体が伸び始めてくる
おむつ交換が行いやすくなった
現在は 食欲回復、褥瘡も治癒している

導入後アンケート結果 1

腰痛の有無

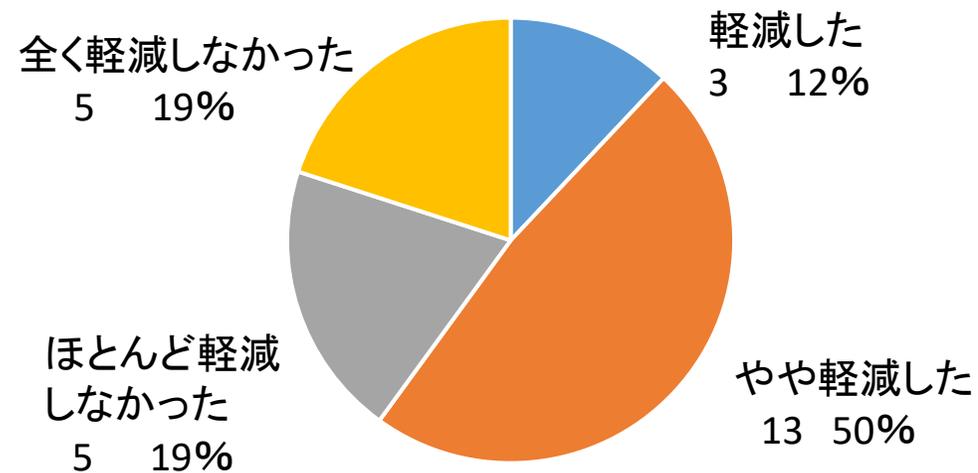


腰痛が無くなった 5名

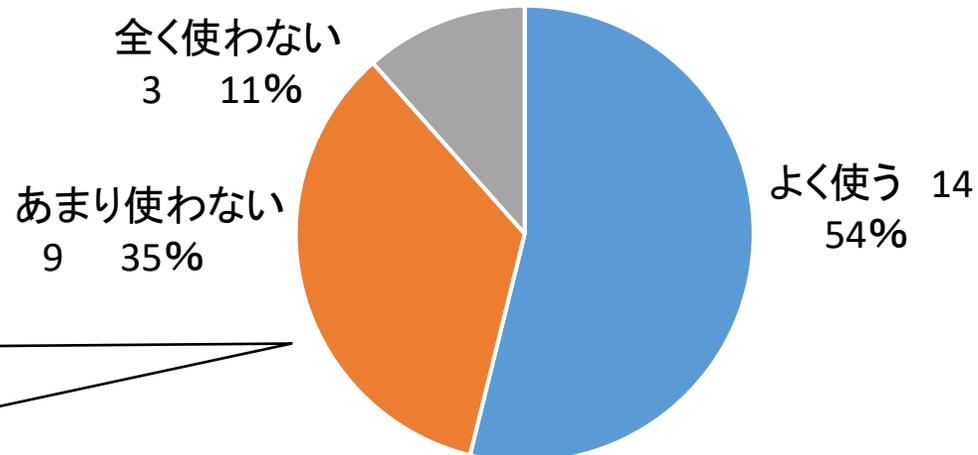
約半数の職員があまり活用出来ていない

- ・使うのに時間がかかる
- ・取りにいくのが面倒
- ・使うのを忘れてしまう

身体的負担について

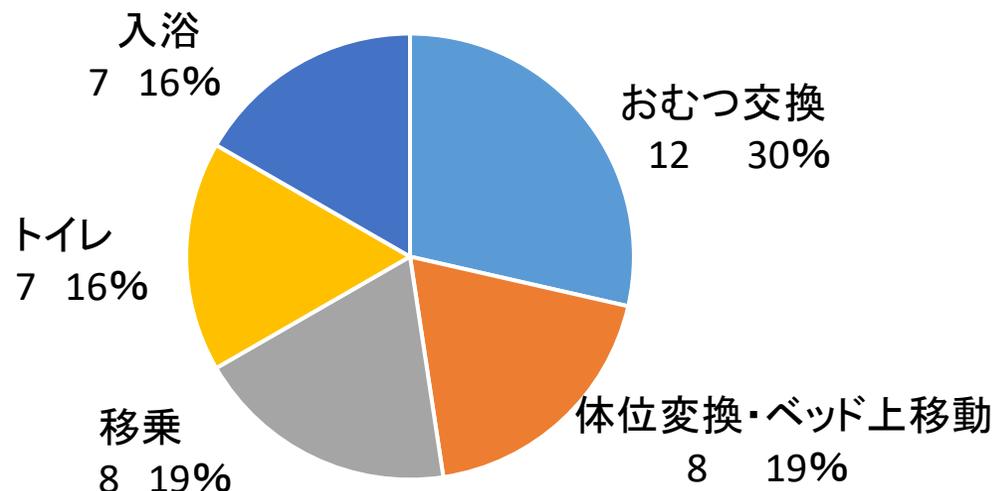


福祉用具の利用状況



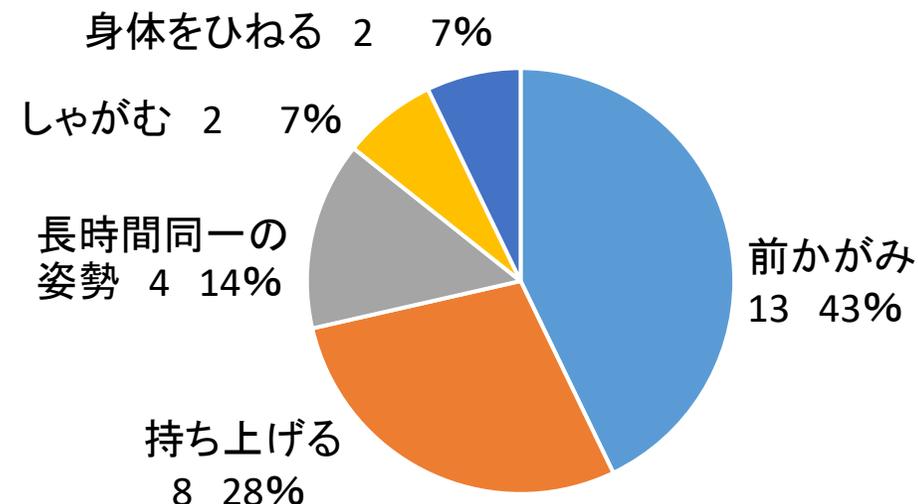
導入後アンケート結果 2

負担が大きいと感じる介護場面



ベッド上移動・おむつ交換・移乗の負担が減少
トイレ・入浴介助での負担が増えた

負担の大きい介助姿勢



高さの変わるベッド(17台)を活用する事で
前かがみの姿勢は減少したと考えられる

昼夜ともおむつ交換対象者 37名

今後の取組みについて

- ・ トータルセーフティケアの考えを持ち 24時間で物事を見ていき
ポジショニングなどの技術の向上を目指していく
(ノーリフティングケアの意識を全職員が持てるようにする)
- ・ 福祉用具を活用し職員の腰痛予防や負担軽減に繋げていく
(必要な福祉用具の追加導入も検討していく)
- ・ ノーリフティングケアを進めるために業務改善を行い無駄をなくして
取り組みやすい環境をつくる
- ・ ノーリフティングケアを普及するためには電動ベッド導入の必要性が
あり 20台の購入を検討している (必要な人を選定し活用する)
- ・ 現在は一部の入所者の方にしか行えていないので、他の入所者の方
にも それぞれに合った福祉用具を活用出来るようにしていく



ご静聴ありがとうございました。



令和4年度 愛媛県ノーリフティングケア 普及啓発事業

社会福祉法人 伊方社会福祉協会

地域密着型特別養護老人ホーム 三崎つわぶき荘

- ▶ 【発表者紹介】
- ▶ 三崎つわぶき荘
ノーリフティングケア委員会
委員長：兵頭佐代（介護主任）

- ▶ 副委員長：小田優太
（介護副主任・ユニットリーダー）

もくじ

- ①：施設紹介・職員紹介
入居者紹介
- ②：施設にある福祉用具紹介
- ③：応募理由
- ④：三崎つわぶき荘においての
ノーリフティングケアの取り組み
- ⑤：普及啓発事業開始
- ⑥：個別研修後に取り組んだこと
- ⑦：普及啓発事業に参加をして
- ⑧：今後の課題・取り組み

伊方町の紹介

伊方町 (2023.1.31現在)

人口：8372人

高齢化率：47.40%



施設紹介 ～施設概要～

愛媛県西宇和郡伊方町三崎4414番地1
社会福祉法人 伊方社会福祉協会
地域密着型特別養護老人ホーム 三崎つわぶき荘

開設：平成25年 6月

1階 グループホーム
18床（2ユニット）

2階 地域密着型特別養護老人ホーム
29床（3ユニット）

愛媛県西宇和郡伊方町湊浦861番地1
特別養護老人ホーム つわぶき荘
特養：60床

ショートステイ：10床

ケアハウス：30床 居宅介護支援事業所

▶ 施設写真



施設紹介～施設概要～

平面図

2階
地域密着型
特別養護老人ホーム

定員
29名

- うめユニット……10名
- ももユニット……9名
- さくらユニット…10名



施設紹介～職員～

職員数（特養介護・看護）

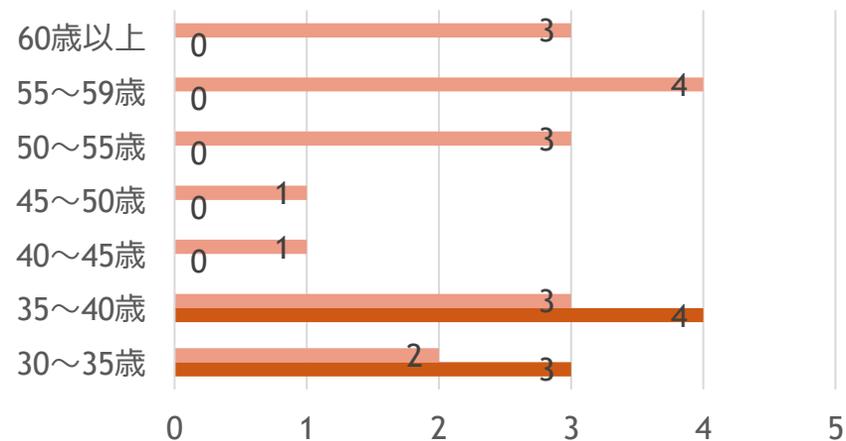
（R5.2月28日現在）

男性：7名

女性：18名

法人での経験年数は10年以上の職員が大半を占めている。

▶ 年齢層グラフ



	30～ 35歳	35～ 40歳	40～ 45歳	45～ 50歳	50～ 55歳	55～ 59歳	60歳以 上
■ 女性	2	3	1	1	3	4	3
■ 男性	3	4	0	0	0	0	0

■ 女性 ■ 男性

施設紹介～入居者～

男女比率（R5.2月28日現在）

男性：6名

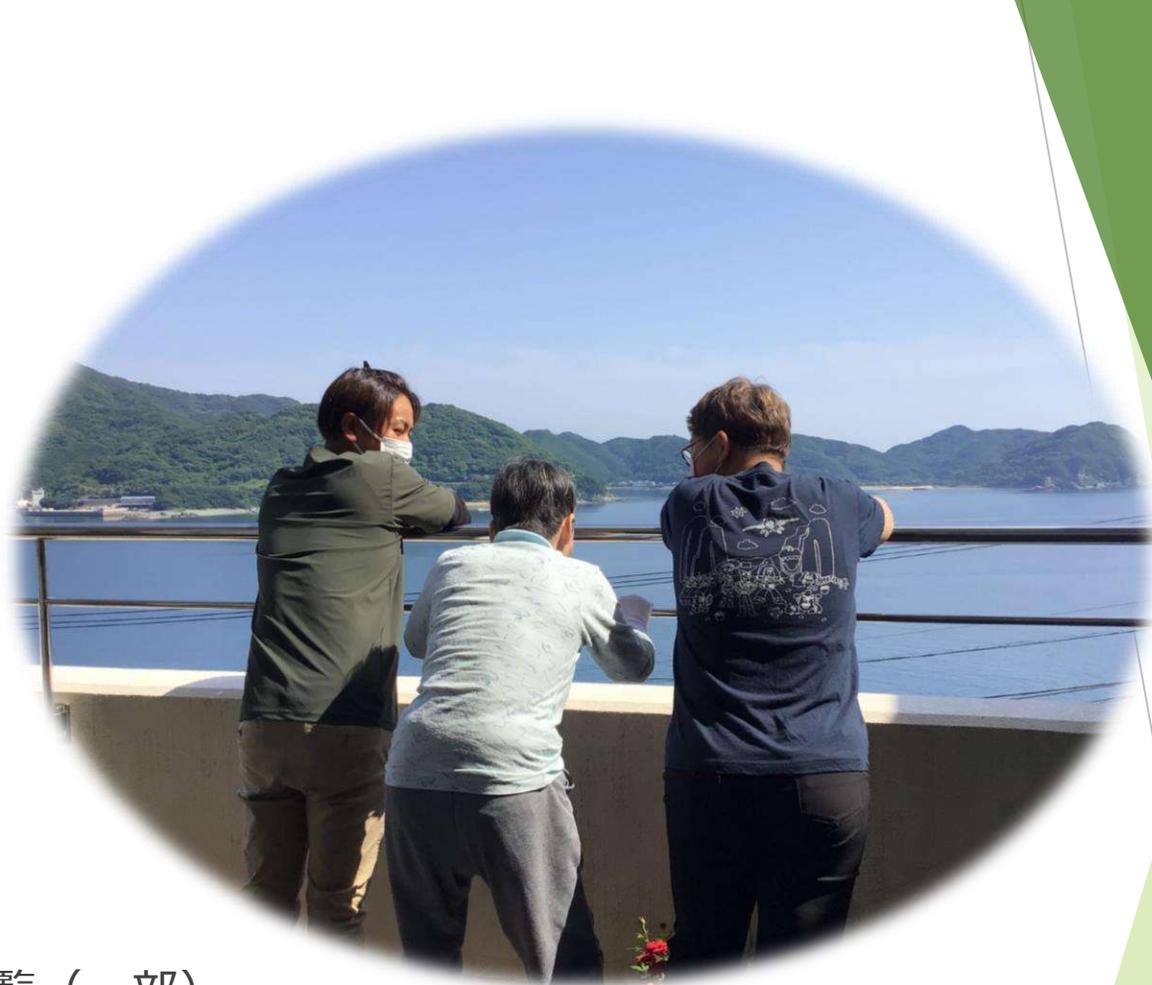
女性：23名

平均年齢：87.3歳

平均要介護度：4.1

入居者様に使用している福祉用具一覧（一部）

- ・床走行リフト
- ・ミニリフト
- ・マルチグローブ
- ・移座えもんシート
- ・車椅子
- ・ターンテーブル
- ・フレックスボード
- 等



施設にある福祉用具



↑ミニリフトを使用し
トイレへ行っています。



↑マルチグローブは
1人1枚携帯しています。



↑
*職員勉強会の時の様子（フレックスボード）

施設にある福祉用具



お風呂は、檜風呂で備
え付けのリフトで入浴
介助を行っています。

ノーリフティングケア普及開発事業への 応募理由

現状

当施設にてノーリフティングケア推進委員会を立ち上げて三年目になった。研修に参加した職員が中心となり、勉強会もしてきてはいたが細やかな対応まではできず、福祉用具を適切に使用できていないのが現状である。

全職員がノーリフティングケアをしっかりと理解し、施設全体で取り組むには講師の方々による指導が不可欠だと思い、応募をしました。

三崎つわぶき荘においての ノーリフティングケアの取り組み

年	三崎つわぶき荘での取り組み
2018	ノーリフティングケアコーディネーター ベーシック (1名参加)
2019	ノーリフティングケアコーディネーター ベーシック (2名参加)
2020 (令和2年)	4月 ノーリフティングケア推進委員会立ち上げ 年2回（ノーリフティングケア導入研修）の勉強会実施。 （講師として、つわぶき荘：菊池三生介護主任）
2021 (令和3年)	令和3年 年3回勉強会実施（同じ内容） 福祉用具を使用してみよう。 委員会メンバーが中心となり勉強会を実施。
2022 (令和4年)	令和4年 ノーリフティングケア普及啓発事業に参加 9月～3月 アドバイス研修・個別研修

ノーリフティングケア普及啓発事業 開始

2022年7月4日（月）

令和4年愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業 マネジメント研修に
委員長：兵頭・副委員長：小田が参加（オンライン）

2022年9月8日（木）

令和4年度愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業
全体研修に委員長：兵頭・副委員長：小田が参加

2022年10月28日（金）

アドバイス研修。協力事業所：開明の杜にて。

委員長：兵頭・副委員長：小田が参加。

提出書類を見て頂き、【様式6】実施計画書についてアドバイスを頂く。

【様式6】ノーリフティング実施計画書【令和4年10月26日作成】

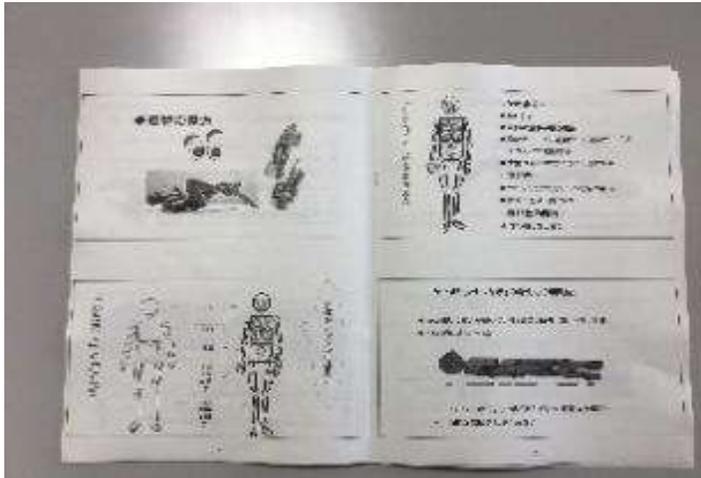
No.1

【事業所名 地域密着型特別養護老人ホーム 三崎つわぶき荘】

No.	課題	長期目標	期間	短期目標	期間	具体的内容
1	ノーリフティングケアの理解に職員間で差がある	全職員がノーリフティングケアに取り組むことができる	6ヶ月	全職員がノーリフティングケアを理解できる	1ヶ月	1. 勉強会の開催 ① ノーリフティングケア推進委員会のメンバーでの勉強会 ② 各ユニット会での勉強会 ③ 多職種での勉強会
2	移乗介助の負担を軽減したい	福祉用具の使用方法を習得し活用できる	6ヶ月	床走行リフト・スライディングシート・スライディンググローブ・フレックスボードを安全に使用できる	1ヶ月	1. 床走行リフト・スライディングシート・スライディンググローブ・フレックスボードの使用時の作業標準書を作成する。 2. 安全に使用できているか確認をする 技術チェック表の作成 3. 腰痛を軽減するため始業前にストレッチをする時間を設ける

個別研修1回目 姿勢の見方

▶ 研修風景写真



個別研修2回目 ポジショニング

▶ 個別研修様子



【様式6】 ノーリフティング実施計画書【令和4年12月10日作成】

No.1

【事業所名 地域密着型特別養護老人ホーム 三崎つわぶき荘】

No.	課題	長期目標	期間	短期目標	期間	具体的内容
1	ノーリフティングケアの理解に職員間で差がある	全職員がノーリフティングケアに取り組むことができる	6ヶ月	全職員がノーリフティングケアを理解できる	1ヶ月	1. 勉強会の開催 ① ノーリフティングケア推進委員会のメンバーでの勉強会 ② 各ユニット会での勉強会 ③ 多職種での勉強会
2	移乗介助の負担を軽減したい	福祉用具の使用方法を習得し活用できる	6ヶ月	床走行リフト・スライディングシート・スライディンググローブ・フレックスボードを安全に使用できる	1ヶ月	1. 床走行リフト・スライディングシート・スライディンググローブ・フレックスボードの使用時の作業標準書を作成する。 2. 安全に使用できているか確認をする 技術チェック表の作成 3. 腰痛を軽減するため始業前にストレッチをする時間を設ける
3	拘縮や筋緊張がある	安全に安心して過ごせる	6ヶ月	姿勢の見方を理解する	1ヶ月	1. 身体の動かし方・姿勢の整え方の習得 各ユニットで対象者を決める 2. 適した福祉用具の選定・使用

研修後に取り組んだこと

- ▶ 当施設の褥瘡排泄委員会と一緒に、ポジショニングの勉強会を実施。（12月）
- ▶ 研修後、3ユニットで1名ずつモデルを選定し、ベッド上のポジショニングに取り組んだ。（12月～2月）
- ▶ 2月末から1週間に一回ほど、ノーリフティングケア普及啓発事業のリーダー・サブリーダーが集まり、会議・勉強会を実施。（2月～）



褥瘡排泄委員会勉強会の様子

褥瘡排泄委員会とノーリフティングケア委員会が講師役となり、勉強会を実施。

▶ リースのクッション



H様 身体状況等

年齢・性別：92歳女性。

介護度：要介護度5

現病：アルツハイマー型認知症 両変形性膝関節症 高血圧症

既往歴：腰部脊柱管狭窄症があり。

車椅子：ティルト式・リクライニング車椅子を使用中。

移乗：床走行式リフト使用。

トイレ誘導時にはミニリフトを使用。

H様

個別研修前



ラウンド時



ラウンド後にクッションをリリースし、
今あるクッションと合わせて
ポジショニングを行う。



3月7日のラウンド時
仰臥位の姿勢



A様 身体状況等

94歳女性

介護度：要介護度5

既往歴：右大腿骨骨折。

車椅子：チルト式・リクライニングを使用。

【ポジショニングクッションの当て方】
を作成し、入居者様の居室へ掲示した。

A様の体交クッションの当て方について

令和5年2月1日

左右の体位交換を、下の写真のようにお願いします。



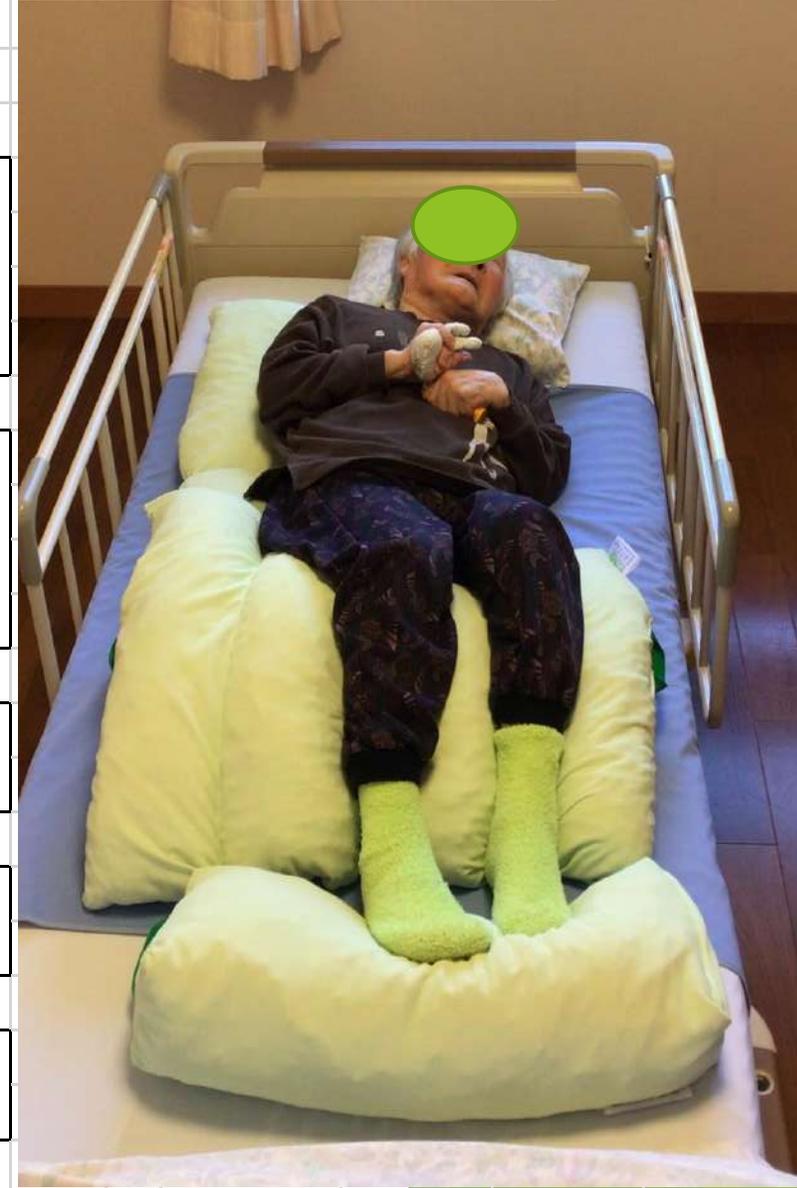
☆背部には 二連クッションを入れて下さい。

☆膝の下にはジャバラクッション、その下にピーチクリーンを入れて高さ調節をして下さい。

☆踵は浮かせた状態にしてください。

☆つま先には、スタンダードタイプを使用して下さい。

☆体位交換の際には、体の位置に注意して対応して下さい。



S様 身体状況

- ▶ 年齢・性別：85歳・女性
- ▶ 介護度：要介護5

- ▶ 既往歴：右大腿骨頭壊死症による下肢筋力低下があり。
チルト式リクライニング車椅子を使用。

- ▶ ユニットでクッションを自作する。

S様のポジショニング

▶ 個別研修前



▶ 個別研修後



3/7のアドバイス研修後



令和4年度愛媛県ノーリフティングケア 普及啓発事業に参加をしてみても

研修に参加をして、当施設には福祉用具は充実しているが、クッション類が豊富ではないことに気づいた。個別研修で教わった事（姿勢の見方・姿勢の整え方）を他の委員会と合同で勉強会を実施できたことはよかった。

普及啓発事業を通して、職員の学ぼうとする意識が想像以上に高いと感じた。

「事業が終わったから終了」ではなく、「これからがスタート」。介護者・利用者（入居者）双方の安心・安全を目指し取り組んでいくことができると考えている。

今後の課題・取り組み

- ▶ 今回の普及啓発事業の振り返り、各ユニットでの振り返りを行う。
- ▶ 【様式3】～【様式6】の随時見直し。
状態変化のあった入居者様・新規入居者様の様式の作成。
- ▶ 福祉用具の使い方、介護技術の研修への参加
- ▶ 環境整備（居室）の見直し。
- ▶ 施設での個別勉強会を実施。職場巡視の実施。



終わりに

【令和4年度 愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業】に選定して頂き、ありがとうございました。

講師の守谷先生・井下先生を始めとする愛媛県介護実技普及指導員の皆様、協力事業所の開明の杜の橋本さんを始めとした施設の皆様、事業に携わって頂いたすべての皆様に感謝を申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

社会福祉法人 伊方社会福祉協会 地域密着型特別養護老人ホーム

三崎つわぶき荘



社会福祉法人
西予総合福祉会

地域の全ての方にまごころを。

令和4年度 愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業 特別養護老人ホーム皆楽園 事業報告

皆楽園に住んで良かった

皆楽園を利用したいと言える施設づくり

施設紹介

- **ユニット型の特別養護老人ホーム**
- **定員 特養50床 短期10床**
- **平均介護度は4.1**
- **目の前に宇和海が広がり、自然豊かな環境に立地**
- **完全個室、ご自宅での暮らしの継続を意識したケアを提供**



【施設前の景色】



【宇和海に架かる虹】



【正面玄関】



【居室】



【職員構成(特養、短期)】

1.性別

◎男性	22名
◎女性	26名
計	48名

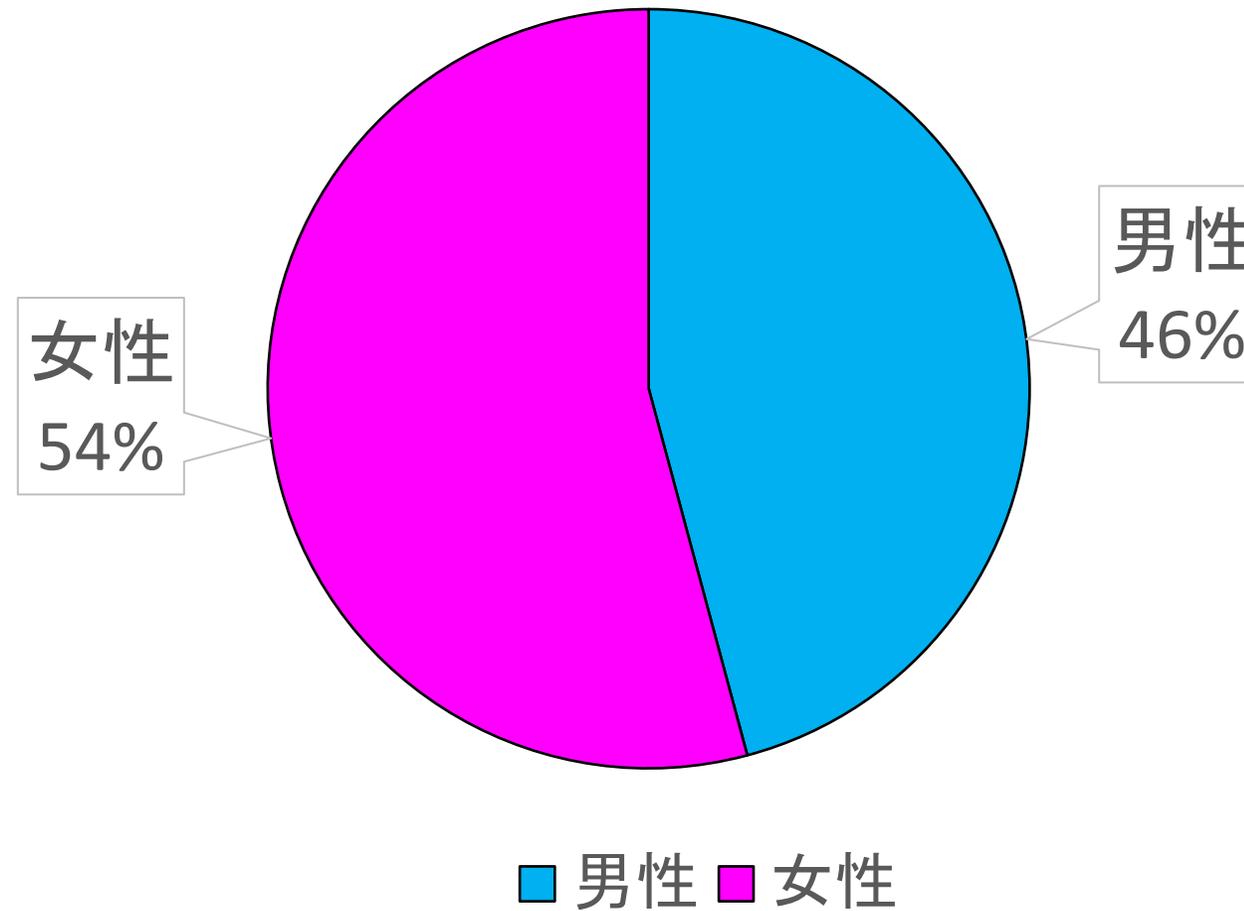
2.年齢別

◎20歳代	8名
◎30歳代	9名
◎40歳代	13名
◎50歳代	9名
◎60歳以上	9名
計	48名

(R5.3.1現在)

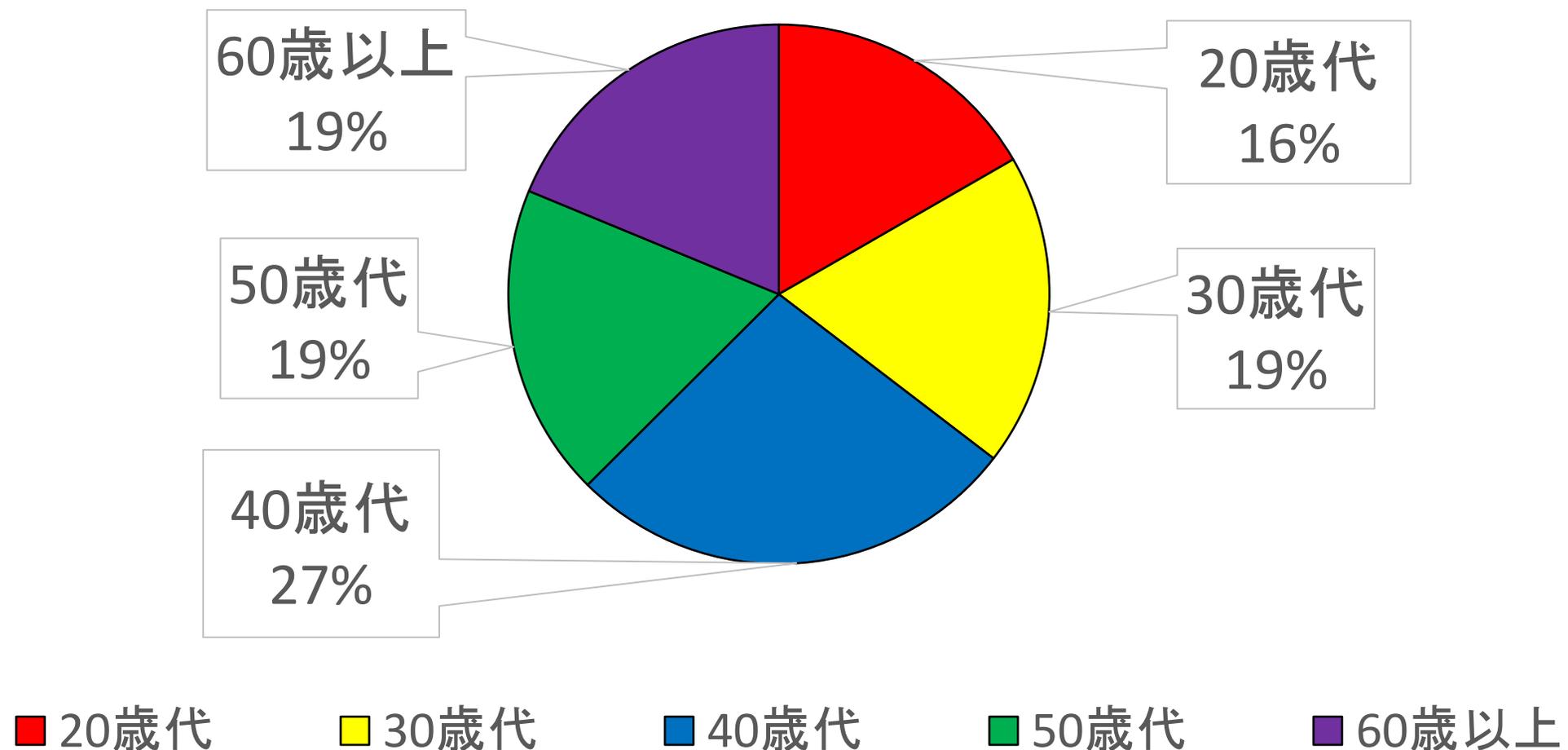


1. 性別(職員構成)



2.年齢別（職員構成）

※65%が40歳以上！



普及啓発事業に参加するきっかけ

- 令和3年度に法人内で**ノーリフティングケアLabo**が立ち上がりノーリフティングケア推進委員会が始まる。
- 去年度に他の施設がモデル事業に参加しノーリフティングケアを意識するようになる。
- 施設全体であらゆる場面で**業務改善、環境改善**の意識が広まり自然とノーリフティングケアにも注目が集まりだす。

普及啓発 事業内容

- 9月 全体研修
事業説明 様式説明
- 10月 アドバイス研修
つわぶき荘訪問
作成の様式精査 施設見学
- 11月 個別研修
施設内研修 ラウンド
- 12月 個別研修
施設内研修 経過報告
- 3月 アドバイス研修
ラウンド 経過報告

作成資料

- 導入前職員アンケート
- 優先度チェックリスト
- 要介護者別リスク見積書
- ノーリフティング導入見積書
- 福祉用具導入見積書
- ノーリフティング実施計画書

つわぶき荘では**リスクマネジメントの重要性**を教えていただき皆樂園で行っている事がまだ表面上のノーリフティングケアだということに気づきました。

つわぶき荘は全体的に**雰囲気**が**すごく明るく利用者様の顔も柔らかい印象**でした。ノーリフティングケアを早くに立ち上げた施設ならではの**安心感**という**ノーリフティングケア**にとって大切な部分があることが感じとれました。

つわぶき荘を訪問し皆樂園に持ち帰った事

- 「**移乗**」と「**ポジショニング**」はどちらが欠けてもいけない。(二次予防)
- PDCAサイクルを使い**現状把握、改善予防**に努める。
- 「**安全衛生面でのノーリフティングケア**」

導入前の皆楽園の状況

法人内の委員会立ち上げ前

- 立てれない利用者の方の移乗は**基本的に抱えていた**。トイレは2人介助で効率も悪く職員と利用者の負担も大きかった。
- 移乗用の道具はフレックスボードは使用していたが**スライディングボードはほとんど使えていなかった**。
- ポジショニングも姿勢の見方が分かっていないため**なぜそこに使うかを理解できていなかった**。

導入前の皆楽園の状況

法人内ノーリフティングケア委員会立ち上げから普及啓発事業まで

- やはり昔から抱える介護をしてきたため、**ノーリフティングケアに対して抵抗があり**抱えた方が良いと考えてしまっている。
- 購入した福祉用具の研修会や練習をするが、やはり**時間を気にして使用しない**。デモ機も借り福祉用具に慣れてもらおうとするが**まだ意識が低く協力的ではなかった**。
- 姿勢の大切さを意識するが**知識のある職員が少なく**しっかりとしたポジショニングがわからなかった。

皆楽園の課題

- 皆楽園内に腰痛を持った職員が多く、長期間休まれる方もおられるため**負担軽減と腰痛予防を行いたい。**
- ノーリフティングという言葉は聞いたことがあっても福祉用具を使ったり介助姿勢に気を付けたりできていない。しっかり**意味を理解し意識をしながら仕事ができるようにしたい。**
- 利用者に対して**適切な福祉用具を使えていない、使い方が分からない職員をなくしたい。**

課題に対しての取り組みとその成果・現在の状況

- 皆楽園内に腰痛を持った職員が多く、長期間休まれる方もおられるため負担軽減と腰痛予防を行いたい。

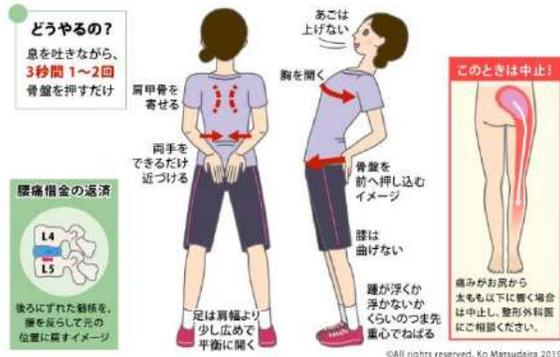


- 腰痛に対して意識と予防を促す為に施設内に**腰痛予防体操のポスター**を見やすい場所に貼る。



- 手洗い場や休憩スペースに近い場所に貼ると見てくれるようにはなった。
- 直ぐに効果が出ることは難しいと**考え長期間での腰痛者の減少に繋がれば**と考えている。

借金はその場で返済!「これだけ体操」



皆楽園玄関の様子



職員玄関の様子



課題に対しての取り組みとその成果・現在の状況

- ノーリフティングという言葉は聞いたことがあっても福祉用具を使ったり介助姿勢に気を付けたりできていない。しっかり意味を理解し意識をしながら仕事ができるようにしたい。



- 研修後、姿勢の見直しをしてポジショニングの意味を理解する。介助する際もベッドの高さ調節や福祉用具を使い**無理のない姿勢での介助をすることを心掛けてもらう**。研修で**勉強したことを活かしてもらう**。



- 研修で勉強したことでクッションの使い方もわかり、適したクッションも購入できた。ベッドの高さ調節やマルチグローブを使い**無理せず安全な姿勢を意識できてきた**。

課題に対しての取り組みとその成果・現在の状況

- 利用者に対して適切な福祉用具を使えていない、使い方が分からない職員をなくしたい。



- ユニット会などで福祉用具の勉強会をして対象利用者に対してのケアを統一する。
- デモ機や導入機器は初めは2人介助で行い使用方法を確認しあうように全体で統一する。



- 普及啓発事業の研修でノーリフティングケアに対しての意識が高まり進んで福祉用具を使用してもらえるようになった。
- 1人ではわからなかったことも誰かとする事によって分からないままで終わらすことがなくなってきた。



個別研修

ラウンドの様子



2022/11/18



2022/11/18



**勉強会をして使用方法の確認。
安全確認も怠らないように注意しています。**

**研修で勉強し介護用のクッション購入。
少しずつ使用開始しています。**



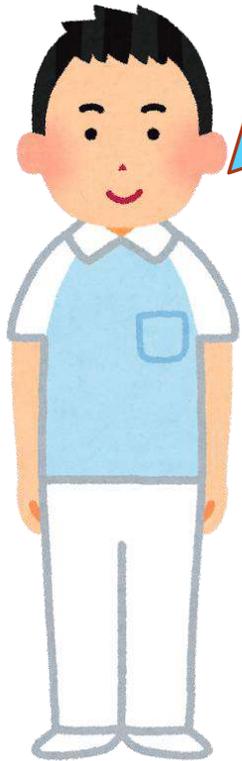
その他の皆楽園での取り組み内容

- 福祉用具の安全な保管方法、現場の安全面など環境整備。



- 福祉用具を統一して使いヶアプランにも導入、利用者一人一人の状況把握、改善予防を行える体制にする。(PDCAサイクル)

ノーリフティングケアを勉強した職員の声



- スライディングボードの使い方がわかって楽になった。腰痛予防になっている。
- 今までマルチグローブなど使っていなかったが研修を受けて使うよう意識がついて良かった。

- クッションの当て方、ポジショニングの研修を受けて使い方がわかり当て方が変わった。
- 研修で姿勢の見方を勉強しポジショニングを見直して写真を撮ると他の職員の方も意識してポジショニングしてもらえるようになった。



これからのこと

課題

- ノーリフティングケアを**意識して取り組んでいる職員と意識がまだできていない職員の差**がある。
- 今回の成果は全ての職員に見られることではなく**浸透、統一すること**はまだできていない。



委員会としてもまだまだな部分も多く、他職員と協力し**皆樂園全体でノーリフティングケアをもっと勉強し広めれるような活動**を行っていきたい。

普及啓発事業に参加してのまとめ

勉強したことで自信にも繋がりノーリフティングケアを意識しながら仕事ができる職員も増えた。

今の意識する気持ちを忘れないようにこれからも委員会での推進活動を継続しより良い施設環境を作っていくという皆樂園の方向性も定まった。

ノーリフティングケアを通じて伝えていきたいこと



職員と利用者の安心安全な介護がこれからの介護を支える。

利用者様には・・・

皆楽園に住んで良かった

皆楽園を利用したいと言える施設づくり



職員には・・・

皆楽園で働けて良かったと思える職場づくり



ご清聴ありがとうございました。
今後ともよろしくお願ひします。



西予総合福祉会

令和4年度 協力事業所としての取り組み報告

社会福祉法人 聖マリア会 特別養護老人ホーム みどりの郷
介護主任 神野 翔平
介護副主任 浅野 有紀
機能訓練指導員 坂本 絵美

*写真使用の承諾を頂いています



令和2年度 モデル事業の応募理由

- 腰痛職員のやむを得ない離職発生を防ぎたい
- 今後腰痛対策強化を図り、利用者様・職員の双方にとって、優しい環境を確立したい

目標

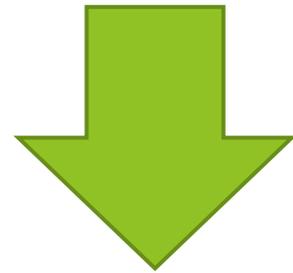
- ノーリフティングケアに対する全職員の意識統一
- 福祉用具導入・活用による移乗介助のスキルアップ
- 職員の腰痛軽減

取り組みの中で変化していく考え

研修前の『ノーリフティングケア』とは？

= 持ち上げないで介助が出来る！

腰への負担がなくなる！ 職員が楽になる！



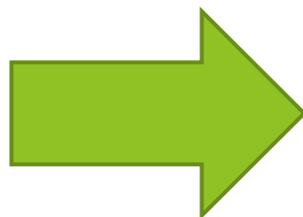
研修を重ね、介護者側だけでなく、利用者様にとっても安心・安全が重要であり大きな目的であると意識改革！

= 24時間のトータルセーフティケアへの関心が強くなる！！

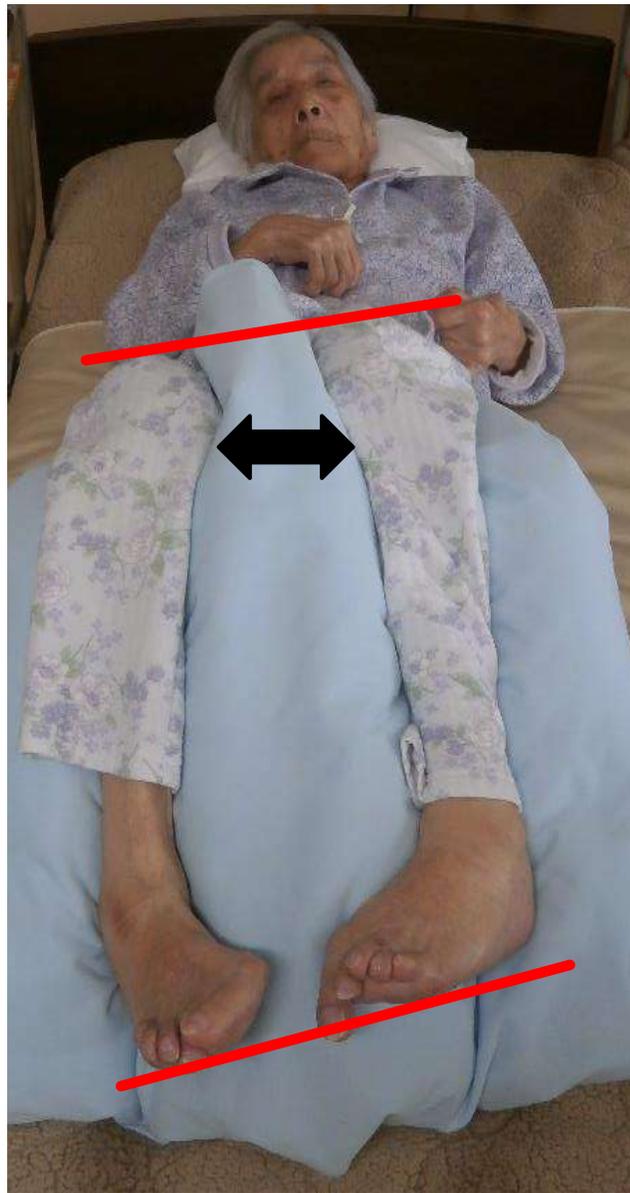
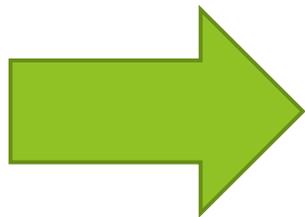
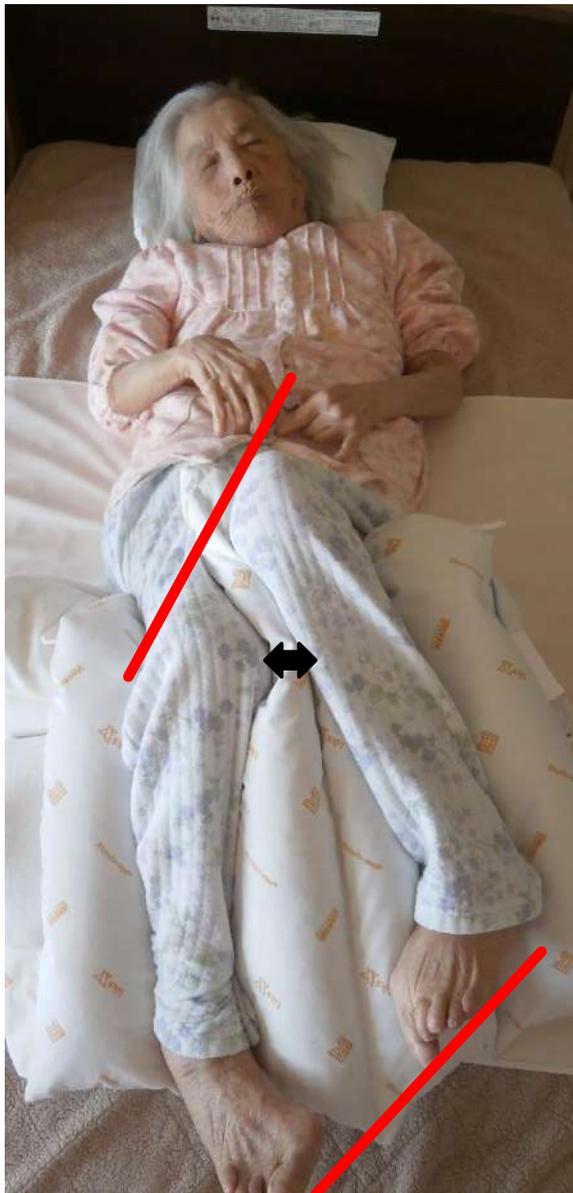
令和3年度 みどりの郷独自の展開

- 利用者様：トータルセーフティケア
- 介護者：ノーリフティングケア指導やケア
- PDCAサイクルの展開

症例① 【トータルセーフティケア徹底3か月後】



症例① 【トータルセーフティケア徹底9か月後】



★ ★ ★
筋緊張緩和

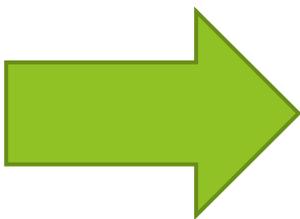
さらに獲得成功！
→関節可動域

さらに拡大！
⇒臥位姿勢・座位姿勢
共に大きく変化

★ ★ ★

症例①

【座位姿勢の変化】



座位姿勢変化ポイント

- ・ヘッドレストへ頭部接地
- ・上肢のリラックス状態
- ・仙骨座り改善
- ・フットレストへ足底接地



笑顔 😊

症例②



ポジショニング前



ポジショニング後

令和4年度 その①

令和3年度の取り組みをまとめ報告発表

- 令和4年8月31日

第17回 愛媛県老人福祉施設大会 ⇒ 優秀施設に選出

- 令和4年9月27～28日

第69回 四国老人福祉施設関係者研究大会 ⇒ 優秀施設に選出

- 令和5年1月26～27日

第1回全国老人福祉施設大会・研究会議～JSフェスティバルin栃木～

⇒ **奨励賞受賞**

発表内容：映像配信中♪

YouTubeにて配信

『**愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業への取組みについて**』

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=VmP6Em25Dws>

QRコード：



是非ご覧ください★

令和4年度 その②

令和4年度の協力事業所へ応募・参加

【応募理由】

ケアの質向上

取り組みを風化させず発展・継続する好機

推進事業所へのサポートにて知識の共有

新たな課題発見



取り組み参加へ♪

取り組みへの感想

◎初心を思い出す

⇒当職員へのケアの質向上

◎推進事業所との環境や考え方の違いを感じ、
考える視野が広がった

『じゃあ、ウチならどうするだろう・・・』

△研修以外で推進事業所へのコンタクトが
出来なかった

まとめ

ノーリフティングケア宣言!

私たちは、介護する側・される側双方が安全で安心な
“抱え上げない” “引きずらない” ノーリフティングケアを行います!

ストップ!



腰痛

- ◎正しい姿勢で介助して腰痛を防ぎます。
- ◎福祉用具を適切に使用し、腰に負担のかかる力任せの介助は行いません。
- ◎休憩やストレッチ、睡眠時間など、健康管理に留意して体に疲労を残しません。



ストップ!



二次障がい

- ◎身体構造に合った姿勢の保ち方、動き方を理解し、筋緊張のない介助を行います。
- ◎その人の身体にあった車いすや介護度にあった適切な福祉用具を使用します。
- ◎介護される方が怖い・痛い思いをする「抱え上げ」や「引きずる」介助は行いません。



介護者も利用者も安心・安全で
ストレスフリーな介護職場の実現へ!

令和2年度モデル事業所

特別養護老人ホーム **みどりの郷**





愛顔(えがお)あふれる

愛媛県

令和4年度愛媛県ノーリフティングケア普及啓発モデル事業

ノーリフティングケアの 更なる普及を目指して

2023.3.20



「やさしさ」を抱きしめよう



愛媛県介護実技普及指導員
守谷理佐 井下ゆかり

目次

1. 更なる普及を目指して
 - 1) 愛媛県の取り組み
 - 2) これからの介護
 - 3) 職場内で普及させるために必要なこと
 - 4) 普及できない理由は何か明確にしていく
 - 5) 普及していくために必要と思われるもの
2. 取り組んできた事業所と意見交換とまとめ

更なる普及を目指して

愛媛県の取り組み

令和4年度

●愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業

令和元年～3年ノーリフティングケア普及啓発モデル事業

●愛媛県介護ロボット導入支援事業

●介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業



総合的な活用を実施

【目的】

- 介護従事者の負担軽減
介護者・利用者 双方の負担軽減
- 職場定着（離職防止）
- 人材確保
- 高齢者の自立支援
- 質の高い介護
- 業務の効率化（生産性向上）

これからの介護

①テクノロジー

介護ロボットや福祉用具・機器、ICTを駆使する
負担軽減につながる便利なものは、便利に使っていく

②テクニク

介護の知識や技術を磨く。人が絶対行ふべきところ 介助場面の技術だけではなく、
アセスメントや利用者を観察する目も磨く

③非密着・非密接ケア

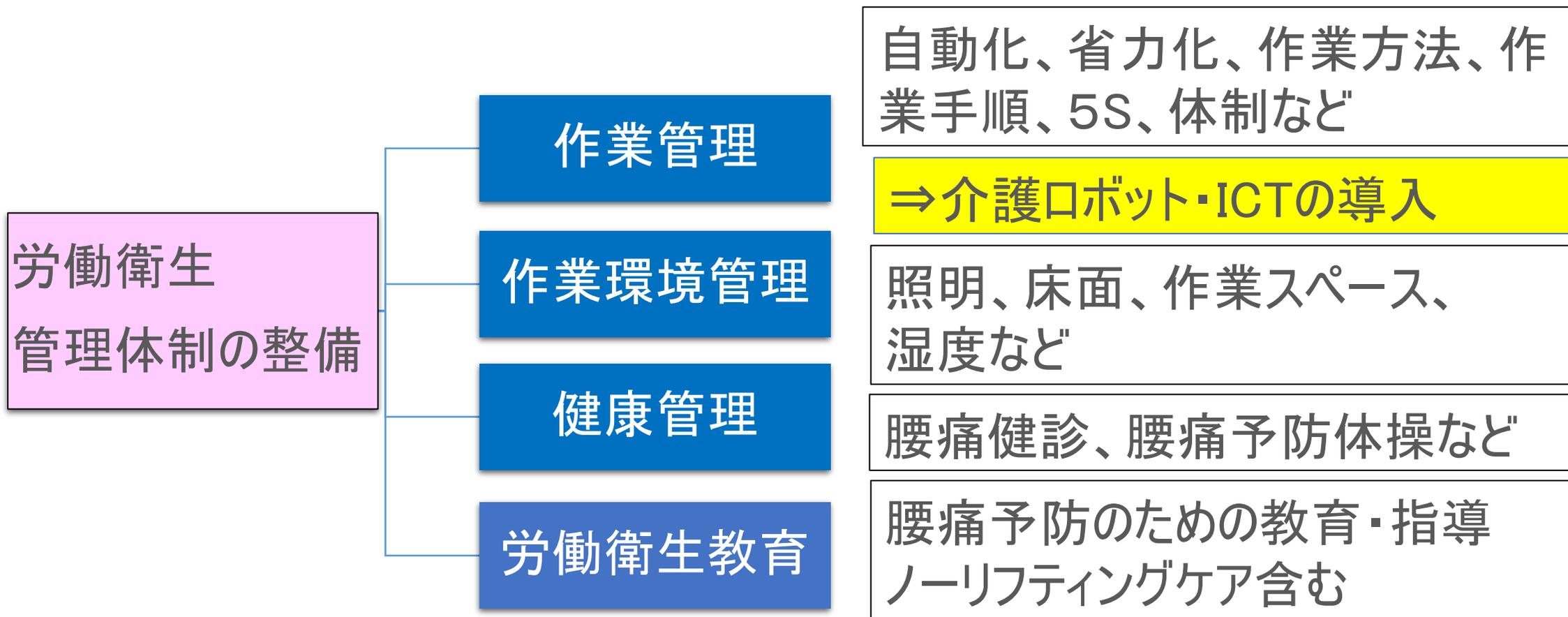
腰痛、褥瘡、拘縮の予防だけでなく、感染症対策としても必要

ノーリフティングケアを含む

トータルセーフティケアを全ての事業所で

労働衛生管理体制

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署(一部改編)



- 生産性向上、職場定着、人材確保、ケアの質の向上
リスクアセスメントを行い、作業管理、作業環境管理、健康管理、労働衛生教育を的確に組み合わせて、総合的に実施

職場内で普及するために必要なこと

1 職場の意識統一

2 職場環境の整備

①体制を整える

②物質的な環境

- ・道具(福祉用具・機器)をそろえる
- ・空間を整える

練習場所を設ける

居室内を整理整頓して、すぐに福祉用具・機器が使えるように配慮する

3 練習を重ねる

①誰でもいつでも練習できる環境を準備する

②技術を評価する仕組みを作る

普及できない理由は何か明確にしていく

- 動機が不明瞭

他の事業所が導入しているから、そろそろ…

- 目的が不明瞭

なぜ始めるのか不明瞭のまま→目的が職員に伝わらない

- アセスメントが不十分

対象者の状態に合った福祉用具や介助方法が選定できていないことで使わなくなる



アセスメントをしっかり行うことで利用者のことを考える時間や向き合う時間が増えることになり、より利用者理解が深まる結果、福祉用具を使うこと以上のメリットが生まれることもある

ノーリフティングケアを妨げる「壁」はなにか

- ・変わらないことの正当化
- ・どんな利得があるのか、実感値が持てない
- ・変わるきっかけがない
- ・誰も変革を主導してくれない
- ・何を換えればいいのか、わからない
- ・どうやって変わればいいのかかわからない
- ・効果検証ができない、はっきりわからない など



ここより3スライド原案：

(株) リンクアンドモチベーション グループデザイン室

モチベーションエンジニアリング研究所 上席研究員

早稲田大学トランスナショナルHRM研究所 招聘研究員

林 幸弘氏 「第2回松山SDGs 経営シンポジウム」より一部編集

変革（ノーリフティングケア）を妨げる「壁」の存在

「壁」は当たり前と思って取り組む

「現状維持」の壁
「対立感情」の壁

「理解」の壁
「共感」の壁

「具体化」の壁
「基準」の壁

「継続」の壁
「効力感」の壁



自分たちの施設・事業所では「壁」は何か
明確にしておかないと解決にはつながらない

問題の可視化から課題設定へ

現状から、まずは目標⇒目的

一つひとつの目標に向かうところの問題なのか
現状が目的に沿っていないのか など



解決策を考える
ステップ

1. 問題

現状と本来目的にしていることとのギャップ

2. 原因

妨げとなっているものは何か

3. 課題

原因の把握で課題が明確になり、
取り組むべきことに気づく

普及していくために必要と思われるもの

- 事業所全体で取り組むための労働衛生管理体制の整備
- 多職種での連携
専門職からの伝達・指導を受けて、介護職が行える体制づくり
- 固定観念、先入観の払拭
現状を維持したいという気持ちも受けとめる。取り組んでいくなかで利用者や他の職員の変化によって現状が改善されていく成果が見えるようになると心に変化が現れる可能性がある
- 教育体制
アセスメント技術の向上→介護過程の理解

取り組んできた事業所と
意見交換

【ノーリフティングケアに取り組んだ事業所との意見交換】



アナログとテクノロジー
うまく活用して
ノーリフティングケアを含む
トータルセーフティケアが
愛媛県全体で
普及することを目指して
今後も活動していきましょう

